

都留文科大学報

第128号

2015年
7月8日(水)

編集 都留文科大学広報委員会

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1 都留文科大学内
☎0554-43-4341 URL : <http://www.tsuru.ac.jp/>



平成26年度卒業式を終えて



学生表彰受賞者



第46回つる子どもまつり



創立60周年記念ロゴマーク

都留文科大学入学式 2

新入生の言葉 社会学科 新井花緒 / 比較文化学科 渡邊菜穂子
学長より新入生を迎える言葉

特集 開学60周年事業の概要 6

開学60周年事業の概要について 高部 剛 事務局長

退任教員のあいさつ 8

初等教育学科 舘山拓人 特任准教授
国文学科 新見公康 特任教授

新教員紹介 文大に着任するにあたって 10

初等教育学科	春日由香	准教授
初等教育学科	十川菜穂	講師
社会学科	高橋 洋	教授
社会学科	両角政彦	准教授
社会学科	小島 恵	講師
社会学科	福島万紀	講師
比較文化学科	佐藤 裕	准教授
比較文化学科	志村三代子	准教授
国際教育学科 (仮称) 準備室	茂木秀昭	教授
初等教育学科	布山浩司	特任准教授
英文学科	Hywel Evans	特任准教授
国際交流センター	周 非	特任准教授
国際交流センター	桑原奈智子	特任准教授
教職支援センター	宮下 聡	特任教授
教職支援センター	山崎隆夫	特任教授
COC推進機構	品田笑子	特任教授
COC推進機構	北垣憲仁	特任教授
COC推進機構	内山美恵子	特任教授
キャリア支援センター	相守光恵	特任教授
キャリア支援センター	牛山 恵	特任教授

新採用職員 24

学外研究報告 25

初等教育学科	佐藤 隆	教授
国文学科	佐藤明浩	教授
社会学科	高田 研	教授
比較文化学科	岸 清香	准教授
情報センター	杉本光司	教授

昨年度の就職状況を振り返る 30

キャリア支援センター長 新保祐司 教授

「学生による授業アンケート」の結果から 32

FD委員会委員長 平野耕一 教授

講演会だより 34

文大だより 36

卒業式の様子
平成26年度卒業生・終了者数及び平成27年度入学試験状況
学生表彰制度による表彰 / 成績優秀者表彰
フィールドミュージアム通信
地域交流センター活動報告
100円朝食の様子
各部、各サークルの活動状況など
名誉教授の称号授与
人事異動
編集後記
本 ぶんだい堂



都留文科大学入学式

今年の入学者は 863 名

4月4日(土)、都の杜うぐいすホールにおいて、平成27年度都留文科大学入学式を開催いたしました。

式典は、おもに学科別に2部制とし、午前10時から行われた第一部では、初等教育学科・社会学科・専攻科・大学院・編入生(初等教育学科・社会学科)、午後1時30分から行われた第二部では、国文学科・英文学科・比較文化学科・編入生(国文学科・英文学科・比較文化学科)を対象に行われました。



入学者の内訳は、初等教育学科202名、国文学科157名、英文学科138名、社会学科現代社会専攻97名、同学科環境・コミュニティ創造専攻76名、比較文化学科151名、文学専攻科4名、大学院文学研究科9名、学部3年次編入29名であり、合わせて863名の入学が認証されました。

会場の大ホールは、入学者およびその保護者でほぼ満員となり、小ホールのスクリーンでも保護者が見守る中、式典が執り行われました。

式は本学大谷哲夫理事長の挨拶から始まり、福田誠治学長による入学認証、および新入生を迎える言葉、続いて堀内富久都留市長、杉本光男都留市議会議長、宮下洋一都留文科大学後援会長より祝辞を頂戴いたしました。

そして新入生の代表として、第一部では社会学科の新井花緒さんが「これから始まる大学生活では主体的に学び、自らの人生を切り拓いていく術(すべ)を身に着けたい」と、また第二部では比較文化学科の渡邊菜穂子さんが「2020年東京オリンピックを契機に大きくグローバル化、ユニバーサル化される社会を力強く生き抜いていけるよう、その資質を身につけていきたい」とそれぞれの決意を述べてくれました。

最後には、吉田悟氏の指揮による本学管弦楽団の演奏にのせて、本学合唱団とともに学生歌「花のかげ」を全員で合唱し、式典は終了いたしました。

当日は、都留市全体が柔らかな春の陽光に包まれ、新入生を温かく迎えました。



新入生の言葉



社会学科
現代社会専攻 新井花緒

陽のひかり、雲の様子に春らしさが感じられ、心まで浮き立つこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを大変嬉しく思います。

これもひとえに母校の先生方の熱心なご指導をはじめ、家族の愛情、友人の励まし、地域の方々の支えなどがあったからこそです。そのことに感謝するとともに、新しい仲間とともに学び、高め合い、大学生生活の4年間を実りあるものにしたいと思います。

4年前の東日本大震災により、数多くの尊い命が奪われました。4年たった今でも震災の爪痕が残っていますが、被災された方々が地域の復興に取り組む姿は、私たちに辛い状況でも諦めず前向きに歩む強さの大切さを教えてくれます。

これからの4年間の月日で大きく復興が進み、多くの方々が震災前の生活を取り戻すこと、震災以前よりも充実した生活を送れること、大きな希望を持てることを願います。その同じ月日で私たちは復興を目指す方々のような心の強さと目標を達成するための知識、技術を身につけていかなければならないと思います。

また、今年は戦後70年を迎える節目の年でもありま



比較文化学科 渡邊菜穂子

うらかな、春の陽射しに誘われて、桜もほころび始めるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学に入学、学生生活を送れることを大変嬉しく思います。これからの大学生活の中で、日々勉学に励み、

仲間と切磋琢磨しながら、充実した4年間を送りたいと思います。そして、今まで支えてくださった方々に感謝しながら、大学生活を掛け替えのないものにすべく、日々精進して参ります。

私たちの生きている現代社会は、急速な情報化やグローバル化によって大きく変化し、一見豊かで便利に感じられても大きな格差が生まれ、経済的安定が難しくなっています。また、人間の新しい生活環境への適応の能力の低下、少子高齢化といった日本社会が歴史上始めて直面する課題に直面しています。さらに4年前に起きた東日本大震災、昨年御嶽山の噴火などの自然災害によって大きく生活が変化し、災害前の生活を取り戻すことに苦労している方も多くいます。そのような状況に置かれている方々がこの会場にいるかと思われそうですが、辛く厳しい状況の中でも、常に前向きに歩んでいる姿を見ると、人には挫けても立ち上がり前進する力を持っていることを実感させられます。それがまた人の使命であるとも感じています。

私たちが歩いていかなければならない現代社会には立

す。現在の日本は国際社会の一員として今まで以上に国際平和に大きな役割を求められ、政府は新たな安全保障法制を作り上げようと議論を重ねています。同時に戦争体験者の高齢化により戦争を知っている世代が少なくなってきました。私たち若者は平和であることが当たり前となり、その大切さを忘れつつある状況にあります。しかし、時代が、日本がどのように変わろうとも、唯一の被爆国の国民として、戦争体験者の話に耳を傾け、凄惨な歴史を繰り返さぬよう、後世に語り継ぐこと、この国がどう世界平和のために貢献していくべきかを考えていくことが私たちの使命であると思います。

このような時代を生き抜いていくために、これから始まる大学生活では主体的に学び、自らの人生を切り拓いていく術(すべ)を身につけたいと思っています。

都留文科大学は全国各地から学生が集まり、日本各地の文化の一端に触れることができるとおもいます。また、地域の方々とも交流が盛んです。このような豊かな環境のもとで、勉学に励むのはもちろんのこと、部活動やサークル活動など様々なことに挑戦し、自分の可能性を広げ、さらに成長し、自分の器を大きくしたいと考えています。私たちは自分を高める絶好の機会を得ました。この機会を活かし、常に、前向きに、上向きにそして、直向きに、未来を見据えた高い志を抱いて、日々成長することを決意し、ここに新入生代表のことばといたします。

ち向かうべき障害が多くありますが、幸いにもこれらの状況を打開する熱意と、将来を自らの手で切り拓く事のできる恵まれた環境が私たち新入生にはあります。

だからこそ、私たちは今日から始まる大学生活で、これからの日本社会のために、グローバル社会のために何をなすべきか考え、それぞれの目標に向かって学んでいきます。また、自らが積極的に行動し、直面する問題を解決する力を身につけていきます。

私たちには夢があり、希望があります。全国各地から学生が集まり、地域の方との交流が盛んなこの都留文科大学の豊かな環境のもとで、夢を叶えるために、夢を希望に変え、希望を目標に変えられるように大事な一歩を今日踏み出します。そして多くの経験を積み、学び、自分の世界を広げていくため努力して参ります。勉学に励むことは勿論、部活動やサークル活動などの大学生活を通して、協力すること、信頼し合う事の大切さを学び、人として成長したいと考えています。

私たちは、歴史ある都留文科大学の学生として、恥じる事のないよう、自覚と誇りを持ち、自分自身の成長、夢の実現へとつなげていきます。2020年東京オリンピックを契機に大きくグローバル化、ユニバーサル化される社会を力強く生き抜いていけるよう、その資質を身につけていきたいと思っています。

また、私たちそれぞれがそれぞれの未来を見据えた目標と大きな志を持って、一步一步確実に前進して行くことを決意し、新入生のことばといたします。

式辞（新入生を迎える言葉）

都留文科大学学長 福田誠治



学長 福田誠治

この度、晴れて都留文科大学に入学なさった皆さん、おめでとうございます。この良き日に、都留文科大学の教員と職員を代表して、お祝い申し上げます。また、この日を待ちわびていらっしゃるご家族の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。家族の期待を担ってきたお子さんたちも、きっと感謝の思いを持っているものと推測いたします。今から、新入生の皆さんに大学で学ぶ心構えのようなものをお話いたしますが、ご家族の皆様にも今後ともご協力いただき、学びの支援ができれば幸いに思います。

今日お話しすることは、人間は知識を自分で作っていくものだ、従って知識は人それぞれ違う、違うのだからそれを比べるよりは組み合わせることを考えた方がよいということです。

私は、昨年ヒットしたアニメソング「ありのまま(Let it go)」ということばが好きです。それは、とかく自信を失いがちな現代の競争社会では大切なことばだと思います。

皆さんがこれまで続けてきた学校の勉強は、たった一つの(homogeneous)正解があって、それを覚え、練習問題を解くというようなものだったと思います。皆と同じ知識を持つことが理想とされ、間違えることや、疑問を持つためらうこと、それを出来るだけ避けてきたのではないのでしょうか。日本の小・中・高等学校は、皆を同じにしてしまう(homogenize)ことを基本目標にしてきました。同じにならない者を「落ちこぼれ」と言ったわけです。

「ありのまま」は、ディズニーアニメ『Frozen』日本名はなぜか『アナと雪の女王』のなかで歌われます。その一節は、

風が心にささやくの
(The wind is howling like this swirling storm inside)
このままじゃダメだんだと
(Couldn't keep it in, heaven knows I've tried)

そして、
戸惑い傷つき
誰にも打ち明けずに
悩んでた
それももうやめよう

という日本語の歌詞になっています。英語の歌詞は、ずっと深刻です。

Don't let them in, don't let them see
Be the good girl you always have to be
Conceal, don't feel, don't let them know
Well, now they know

です。

話の筋を追うと、アナ(Anna)の姉エルサ(Elsa)は、自分の力を「隠し、感じないように(Conceal, don't feel)」生きてきました。「いつも良い子でいなければ

ならない(Be the good girl you always have to be)]と考えていたのです。ところが、彼女がとてつもない魔法を使うことを周りの人々に知られてしまいました。

「でも、もう知られてしまった(Well, now they know)]

と言うのです。それなら、決心しよう。

誰に何を言われても、気にはならない

I don't care. What they're going to say

もういいわ、これでいい

Let it go, let it go

と考え、「ありのままの姿見せるのよ」と歌うのです。

新入生の皆さんは、大学ランキングや受験勉強など、回りを気にしながら生きてきたことだと思います。自分はこんなものかと戸惑ったこともあるでしょう。でも、入学したら、それらを吹っ切って、ありのままの自分がすばらしいと思って欲しいのです。

エルサの台詞で言えば、この部分の日本語は、

どこまでやれるか
自分を試したいの
そうよ変わるのよ
私

ありのまま 空に風に乗って

となっています。この部分の英文を正確にみると、

It's time to see what I can do
To test the limits and break through
No right, no wrong, no rules for me
I'm free

Let it go, let it go

です。直訳してみると、

今こそ、何ができるかみてる時
限界を知り、打ち破ってみる
私には、正解も間違いも公式もないわ
私は自由

そう歌い、自分で氷の城を作り、朝日を浴びながらその中に一人で閉じこもってしまうのです。

勉強(study、学修)は、決められた知識や技能を

覚え習得することだと皆さんは思ってきたことでしょう。私もそうでした。カリキュラム (curriculum) は、ラテン語の「走る (currere)」に由来し「走るコース、走路」のことですから、勉強とは決められたトラックの上を脇目も振らず、ただひたすら走るのだと解釈されています。ちなみに、人生を走ってきた証が「curriculum vitae (履歴書)」と呼ばれます。

ところが、知識基盤経済といわれる現在では、OECD (経済協力開発機構) や World Bank など国際的な経済機関は学習 (learning) をこそ重視しています。とりわけ大学は、知識を生み出すところだと考えられるようになっていきます。

学び (learning) は、知りたい、やってみたくてという意欲から起きてきます。

なぜだろう、どうしてだろうと探究するところから学びが進んでいきます。

そうだったのか、なるほどなあと理解し、

これまで身につけたものと組み合わせることによって学びが整理され、心にすーんと落ちたところでその人の知識ができあがります。

このような学び方を「constructivism (構成主義)」と言います。

決してそれは、他人から正解を押しつけられるようなことではないのです。

しかし、学びは一人では完了しません。人間の生活は、一人では成り立たないのです。

そのことは、エルサにも分かっていました。「ありのままの姿見せるのよ」と日本語にはなっていますが、「Let it go, let it go」とは、本当はよくないけど、もう仕方ない、昔には戻れない、という、ある種、ヤケの決断なのです。

もう2度と戻らない

I'm never going back

過去はもう過ぎたこと

the past is in the past

風よ吹け

Let the storm rage on.

少しも寒くないわ

The cold never bothered me anyway

とは、エルサが示す精一杯の強がりだったのです。したがって、「Let it go, let it go」という部分は「ありのままの姿見せるのよ」というよりはむしろ「ええいつ、決めたわ」「もうやるっきゃない」という意味になります。

やっとの思いで氷の城にエルサを迎えに来たアナが取り戻したいの

We can change this winter weather

必ず出来るわ。力合わせれば

And everything will be all right

と誘うのですが、その時エルサは、

やめて

I CAN'T!

と拒否します。

アニメの最後になって、魔法の力をコントロールするのは、相手を心から思いやる「真実の愛 (true love)」だとエルサは悟ります。エルサは城の広場を凍らせて、二度と城の門を閉ざさないと約束し、アナや国のひとびととともに真夏のスケートを楽しむのです。

元祖『雪の女王 (The Snow Queen)』(1844年)は、アンデルセン童話の一つとして有名です。そのアニメ版 (Снежная королева) は、1957年にロシアで公開されています。これは、世界的に有名なアニメ監督の宮崎駿に大きな影響を及ぼしたと言われていいます。少年カイを救うために雪の女王を探して旅立った少女ゲルダの冒険物語ですが、真実の愛もまた人間関係の中で作られていくことがよく分かります。

「今朝は寝部屋の窓の外にあるサクラの木にも名前をつけたのよ。『スノークイーン』(雪の女王) というのにしたの。真っ白なんですよもの」とは、村岡花子訳『赤毛のアン』の一節です。

話を元に戻しましょう。

先進国の学びは、活動主義とかアクティブ・ラーニングと呼ばれるものに変化しています。しかも、他者や自分、まわりの自然や事物とのコミュニケーションと問題解決を伴う社会的で、探究的な学びであると見なされています。決して一人答えを覚えるというようなものではないのです。決して、他人と知識の量を競うというものでもないのです。

自ら探究的に学ぶにしても、人々との関係の中で、周囲の自然や事物に働きかけて人間は社会的に学んでいくのです。これを「socio-constructivism (社会構成主義)」と言います。今日では、これが学びの最もよい形態だと見なされています。一人ひとりがそれぞれ異なる学びをしているのなら、その異質の (heterogeneous) 学び、homo でなく hetero の学びそれら同士をつなぎ、組み合わせること、つまりコミュニケーションの能力こそが最も重要な学力になるということです。

皆さんは、大学に入学しても、決して大学の中に一人で閉じこもることなく、心を開いて学んでください。幸い、都留文科大学には扉もなければ、校門もありません。You are free, but must pay. 私たちはこの大学を「知のフォレスト・キャンパス」と名付けていますが、都留文科大学は自然や都留のまちにとけこんでいます。さらに、大学周辺、都留市全体を「フィールド・ミュージアム」と呼んで、そのまま博物館に見立て、学生の学びの場になっています。大学周辺に点在する都留市の運動施設は、学生たちの授業やクラブ活動の拠点になっています。図書館も夜間開館しています。第二の故郷となるこの都留の地において、学び、育って行ってください。皆さんの努力に期待します。

開学60周年事業の概要について

開学60年のキセキ(奇跡・軌跡)!

事務局長 高部 剛



開学60周年を迎える記念すべき年に、本学事務局長に就任いたしました。くしくも創立50周年の記念事業においても担当者の一人として深く関わる機会を持っていました。これも何かの縁なのでしょう、光栄に感じています。

本学は、平成21年4月から公立大学法人都留文科大学となり、期間を6年とする第1期中期計画を羅針盤に歩み始めてちょうど6年が経過し、本年4月から第2期中期計画を抛り所に動き出したところです。

本計画では次の4つの視点に主眼を置いた目標が設定されています。

- 1、学生の「出口(就職)」を重視する。
- 2、学部、学科の再編及び拡大を視野に入れる。
- 3、「選ばれる大学づくり」に注力する。
- 4、自主自立的で効率的な経営体制を構築する。

大学としては、目標の達成に向けて掲げた事業をひとつひとつ丁寧に取り組むことで、計画が遂行されるものと認識しています。

もとより浅学菲才の身ですが、教職員が一体となり、学生から信頼される大学として現状に甘えることなく少しでも高みを目指すべく微力を尽くす所存ですので何卒よろしく願いいたします。

さて、本学は、昭和28年4月に山梨県立臨時教員養成所として設立され、昭和30年4月都留市立短期大学に改編、さらに、昭和35年4月に4年制の都留文科大学へと移行し、以来、多くの変遷を経て、短期大学から数えて本年度に創立60周年の節目の年を迎えました。

創立60周年を迎えるにあたり、これまでの本学の歴史を鑑み、大学に関わった多くの方々の輝かしい業績を称え、本学のさらなる飛躍と、新しい時代をたくましく生きる学生の育成を目指し、理事長の大谷哲夫を会長に、福田誠治学長(副理

事長)と亀田孝夫同窓会長を副会長に据え「都留文科大学創立60周年記念事業期成会」を結成し、記念事業を推進することになりました。

期成会では、記念式典及び記念祝賀会の開催、記念事業の実施、記念誌の発行、寄附金募集等を手掛ける運びとなっています。

本学のさらなる国際化の進展を図るため、学生と留学生が共に暮らし、日常生活を通じて異文化交流を図ることによって、グローバルな人材を育成することを目的とする国際交流会館(仮称)の建設が大きな事業としてあります(平成27年度完成)。その他、計画されている記念事業を時系列で紹介しますと、次のようになります。

5月30日(土).....

午後6時から午後7時にYBSラジオ(AM765)で、スペシャルドラマ「生と死の狭間に」を都留文科大学 Presents にて放送。取材先のシリアで命を絶たれた本学出身の戦場ジャーナリスト、山本美香さんにスポットを当てたもので、主演は藤原紀香(山本美香役)さんでした。

6月10日(水).....

午後6時から午後7時30分に『地方消滅』で2015年の新書大賞を受賞された増田寛也氏をお招きする講演会(学生団体「都留文科大学 Trinity」主催、「都留文科大学創立60周年記念事業期成会」共催)を開催いたしました。

6月27日(土).....

12時30分から午後4時30分に文大名画座として「ツナグ」上映会と映画の原作者である山梨県出身の直木賞作家辻村深月氏をお招きし、併せてトークイベントも開催いたしました。

6月28日(日).....

午後3時30分から都の杜うぐいすホールにて都留文科大学合唱団が賛助出演する「由紀さおり・安田祥子ファミリーコンサート」～うたが咲いています～を開催しました。

10月10日(土).....

午後1時30分～午後6時30分(予定)に、都の杜うぐいすホールにて「都留文科大学創立60周年記念式典」と本市出身で現在文部科学省事務次官の山中伸一氏を講師にお迎えし「記念講演会」を開催いたします。

記念式典では、創立60周年を記念して新たに制定した「大学ロゴ」や「愛唱歌」の披露、創立60周年記念誌の発行などが計画されています。更に、創立60周年を祝い語る祝賀会も予定しています。

また、後の企画ですが創立60周年記念誌をもとにした座談会も計画されています。

最後に、創立60周年記念事業への支援として寄付金募集を本学ホームページに掲載するとともに、関係者の皆様には直接お願い文を送付しました。

つきましては、本記念事業の趣旨をご理解いただき、皆様の温かいご支援を賜りますよう衷心からお願い申し上げます。

都留文科大学創立60周年記念事業寄附のお願い

1. 目標額 50,000,000円
2. 募集期間 平成27年3月から平成27年12月まで
3. 寄附金の種類
 - (1) 個人の場合 1口5千円(できるだけ2口以上のご協力をお願いいたします。)
 - (2) 法人等の場合 1口5千円(できるだけ2口以上のご協力をお願いいたします。)

4. ご厚意に対する感謝

- (1) 寄附者芳名録及び60周年記念事業銘板

ご寄附いただいた全ての方の氏名、法人名等を「都留文科大学創立60周年記念事業寄附者芳名録」及び都留文科大学国際交流会館(仮称)の完成に併せ、会館入口付近へ設置する「都留文科大学創立60周年記念事業銘板」に記して、都留文科大学の歴史に未永く留めさせていただきます。

- (2) 寄附の特典

寄 附 額	特典内容(60周年記念事業記念品)
5千円	大学名入りポタントレイ(小物入れ)(小)
1万円以上5万円未満	大学名入りポタントレイ(小物入れ)(大)
5万円以上	大学名入りポタントレイ(小物入れ)(小)(大) 都留文科大学60周年記念誌

5. 特典のご案内・送付等について

「60周年記念事業記念品」は制作後の送付となります。60周年(平成27年10月)に向けて制作しますので、お届けまでに相当期間を要しますので、あらかじめご了承ください。発送は、平成27年12月を予定しています。

6. 顕彰について

ご寄附いただきました皆様に感謝の気持ちをこめて、お名前等を都留文科大学のホームページ上で、平成28年3月までの間掲載させていただきます。(ご承諾いただいた方のみです。)

7. 寄附金の申込み方法

ご寄附いただくのには、

『(1) 本学へ直接ご寄附いただく方法』と

『(2) 都留市への寄附(ふるさと納税)を通じて、本学へご寄附いただく方法』

の2種類がございます。

個人でのご寄附の場合は、(1)・(2)ともに税制上の優遇措置(確定申告が必要です)がありますが、(2)の『ふるさと納税制度』を通じたご寄附の場合には、所得税の軽減に加え、個人住民税等の特例控除等のさらなる軽減措置があります。

8. 問い合わせ先

都留文科大学 総務課 会計担当

TEL: 0554-43-4341 (代) E-mail: kaikei@tsuru.ac.jp

退任教員あいさつ

図工・美術的思考の重要性



初等教育学科
特任教員
館山拓人

私は、都留文科大学に2011年4月より非常勤講師として1年間、特任教員として3年間お世話になりました。

在職中は、図工・美術教室において授業と並行して様々な研究活動を積むことができました。特に印象に残っているのは、近隣の小学校にて実施した陶芸講座と「たからばこ作戦」が挙げられます。陶芸講座においては、図工・美術教室の学生が指導補助に加わってくれたことで、日頃学んでいる実技的な部分を教職的に発揮できる機会となりました。教育実習とは異なる実技制作を通したコミュニケーションが図れたことは学生にとって有意義だったと思いますし、そのような場を学生と共に作り上げられたことが印象に残っています。また「たからばこ作戦」では、児童の図工作品を撮影した上で、ICTを活用して様々な実験的な取組を実施しました。この実践は、ここで全てを述べるわけにはいきませんが、2014年9月の地域交流研究フォーラムや山梨県南都留地域教育フォーラムなどで紹介することができ、図工教育の今日的な在り方や発展性を示

せたと感じています。

3年前の「着任に寄せて」で私は、「教師が子どもの人格を尊重しどのように関わり成長に寄与するべきか」という教育の過程に

は、先に述べたような美術制作者が作品制作するときの方法論が内包されていると考えます。美術制作者の視点から教育を捉える『美術と教育』、つまり『美術』と『教育』がどのような緊張関係をもっているかを考察することが今、必要ではないでしょうか。」と書きました。

現在の教育改革の中で、「思考力の育成」や「コミュニケーション能力の育成」が教育の柱となり、その手段として言語活動の重要性が叫ばれています。ここで「言語活動」をひも解くと、常に視覚を含めた知覚のイメージを基にさまざまな言語の中から最適と思われる表現を選択している活動であると言えることができるでしょう。まさにそれは図工・美術の表現や鑑賞の領域そのものです。つまり図工や美術は、そこで養われる方法論や視覚的（知覚的）情報を基に言語活動に往還して思考を深めることができる魅力的な教科であり、現在の教育改革に



図工・美術教室の学生と共に

おける言語活動の根幹を支える極めて重要な教科であると言えます。グローバル化が叫ばれる中で日本人としてどうあるべきかを問うた時、その改革の流れを無視することはできないけれども、そんな時こそ子どもの人間教育として図工・美術教育で培われる創造性や思考性を大切にしていかなければならない、と3年前の問いに答えたいと思います。

振り返ると、都留文科大学は学生と教員、地域との距離が身近で豊かにコミュニケーションできるとても良い環境でした。だからこそ、子どもを含む様々な表現を身近に感じ、地に足ついた教育と研究が実践できたと感じています。

今後も、都留で過ごした貴重な4年間の糧に頑張りたいと思います。ありがとうございました。

退任教員あいさつ

関係の学習・学習の関係



国文学科特任教授

新見公康

赴任時の大学報に、「『国語科』にかかわりながら、社会問題や自然環境問題など、森羅万象に積極的にかかわろうとする教師を育てたい。」「生徒とのコミュニケーションを大切にし、「人間」を育て、教師自身も育とうとする姿勢を育みたい。」と書いた。5年前である。それなりの成果が上がったが、それなりに「共育」できていたかは、まだ分からない部分が多い。私の余生の何倍かを若者たちは生きるであろうから。

どのような政権下のどのような国になろうとも、教育は重要な位置を占めるのであるから、「教師」たるもの心してかからねばならないが、「教師」になるかどうかは措いても、私は学生と共に、「人」と為ることについて真摯であり続けたい。「ことば」による生涯に亘る「学び」が、これを保障すると信じている。

すなわち、「学び」とは、さまざまな事象を自分の中に取り込み、それらを関係性として定着させることである。関係づけられる物事そのものは、混沌たるカオスの状態を「ことば」によって分節することで生じるのであり、分節された物事をつなげるのが関

係なのである。新たな関係を模索し、発見し続けることは、その主体の姿勢を示し、それが「生きる」ことにもつながる。だから、物事の関係の付け方にこそ、独自性・主体性が表れるとも言える。自分の考えをもつという点に関しては、この「学び」の「関係」に自覚的であるかどうかが大きく影響するのであり、「関係」を見出す力を訓練して身に付けることが重要である。5年間の私の所行は、この「関係の学習・学習の関係」に尽きる。

赴任年度の年を越した3月、東日本大震災があり、富士宮震源の地震があった。研究室の本が落ち、湯飲みが割れた。昨年、御嶽山が噴火し、今、富士山は未だ噴火せず、箱根が囂しい。大自然の前には、人智などひとたまりも無いことは津波が証明した。と同時に、人工の〈原発〉が、実は人の手に負えない「文明

災」(梅原猛)であったことも証明された。フクシマ以来、何万人かは、未だ仮設住まいである。事故処理がままならない状態で、原発は再稼働し、原発を海外に輸出することになる。「倫理性」を疑わざるを得ない。

一方、大震災以降のボランティアや、大雪時の除雪ボランティアなど、学生の活動を知り、頼もしく思う。まだ捨てたものではないと思い直した。

都留文で「智」を培い、批判精神を養い、昏迷を窮める世界に対処し、戦争のない世界へ道を拓く「人間」に為っていくことは不可能ではない。熟慮したい。熟慮し「哲学」する大人を志向せむ。

定年退職は、人生の一区切りになったが、若い人と付き合い合う限りこの思いは変わらない。関わりのあった皆様、都留文の環境に感謝！



国語教育学特殊演習Ⅲにおける「論作文」指導

新教員紹介

文大に着任するにあたって

ことばの力を育む
国語の授業を創るために

初等教育学科准教授
春日由香

四月より着任いたしました初等教育学科の春日由香と申します。三月末までは、横浜市の小学校にて、二年生の担任をしておりました。つい先頃まで、小学生と共に学び、遊び、給食を食べて清掃し、運動会や遠足等の行事に追われる毎日を過ごしていましたので、都留の新緑を眺めながら通勤している車中で、ふと「なぜ今、自分がここにいるのだろう。」と不思議に思うことがあります。

けれども、都留文科大学の学生と出会い、「国語の授業とは何か？」と自己に問い直しながらワークショップをして講義を展開していくうちに、ふつふつとこれまでの人生では経験しなかった喜びが、胸にわき起こって参りました。輝く瞳をした都留文科大学の学生と共に、教育の意味を考え、「ことばの力を育む」国語の授業を組み立てていく営みに参加できることを、心より嬉しく思っております。

私は大学卒業後、神奈川県立高校にて一年間、東京の私立中学校で二年間の勤務をした後、国語教育専攻の修士課程に進学しました。修士論文では「戦後小学校国語教科書



ゼミの4年生と共に

詩教材の変遷と詩の鑑賞指導」について取り上げて研究をいたしました。その後、横浜国立大学教育学部附属横浜小学校の非常勤教諭として一年間、勤務しましたが、この時に小学生と共に、稚拙ながらも単元学習を行った経験が、私の小学校教員としての出発点になったと考えております。

この後、横浜市の小学校にて二十四年間勤務して参りましたが、自己の「児童詩創作指導」実践を対象化して、その研究を論文の形にまとめたいと考えて、現職教員のまま東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程）に入学しました。満期退学後も引き続き「児童詩創作指導の研究」を、教師と児童の対話や関係性と詩の創作技法を軸としながら、継続しております。本学に職を得て、自分自身の研究テーマを追い続けることができる環境が用意され

たことも、私にとって大きな喜びでした。

また、振り返ってみますと、期せずして私は、小学校、中学校、高校、大学と全校種の学校を経験したことになります。また、その職歴は公立、私立、国立、公立大学法人、と多岐にわたっています。この稀有な経験を生かして、教職を目指す学生達を支え指導する仕事を、今後の私の職業人生を通じて行っていきたいと考えております。

「国語の授業」とは、「ことばの学び」です。「ことばの力を育む」ことは、学び手の人生を貫く「生きる力を育む」ことに通じると、私は考えています。学び手が「自分のことばを創りだしていく営み」こそが、国語教育の目的なのではないでしょうか。そうした問題意識に支えられた「国語の授業」を学生と共に模索していきたいです。よろしくお願い致します。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

聴く耳を養う



初等教育学科講師

十川菜穂

この度、初等教育学科に着任しました十川菜穂と申します。教員養成機関として名高い本学の専任教員に任命されたことに大きな責任を感じながらも、今後学生達が各方面に羽ばたいていくのを今から楽しみにしています。

私は音楽、特にピアノ演奏を専門としており、大好きなフランス音楽の神髄を究めたく、パリで6年間研鑽を積んでまいりました。そこではフランス音楽のみならず、あらゆる時代・国・作曲家・様式の作品を勉強しました。当時80歳を過ぎていた先生は音楽への情熱に満ち溢れ、今思い出しても大変厳しく一切の妥協は許されませんでした。作曲家の意図をどう汲み取るかということの主眼としたレッスンが行われました。ピアノの他に室内楽と伴奏のディプロムを取得した後は、様々な演奏会に出演したり、2年間パリ近郊の市立音楽院で幅広い年代の生徒にピアノを教えたり、高地の夏のアカデミーに室内楽奏者として招かれて演奏したりと有意義な留學生活となりました。

帰国後は演奏活動をしなが
ら、出身大学とその附属音楽

教室で専門教育に携わってきました。そして縁あって本学で非常勤講師として学科必修の音楽実技演習(器楽)を5年に亘り受け持ち、この4月に専任講師に採用頂いてからは主として音楽系のピアノ専攻生の実技を担当しています。

本学の専攻生は相応のピアノ経験はありますが、まだ充分とはいえません。実際有名作曲家の作品を演奏するにはある程度のテクニックが必要であり、楽譜を字面だけでなく構造や和声など奥深いところまで読み込むには広い音楽的知識・教養が不可欠です。うぐいすホールでの卒業演奏会を見据えて、精神面をも含め多角的に導いていこうと思います。

しかし何よりも大切なのは音楽を聴く耳、そして感じる心でしょう。たとえばジャーマンシックスという独特の表情を持つドッペルドミナントの和音があります。楽曲中いくらそれを説明されても、その和音の持つ色合いを感じ取り作曲家の込めた思いに共感できなくては真に理解したとはいえ、ましてや表現などし得ないのではないのでしょうか。将来学校教育に携わる多くの学生にとって、この聴く耳や感じる心を養い、また自分を表現する術を体得するということが、人とのコミュニ

ケーションにおいても良い影響を及ぼすものと確信しています。子供達の豊かな人間性育成に大きく係わることのできる音楽が持つ役割を認識させ、個々の美的感性を磨けるよう指導していきたいと思えます。

都留の四季折々に移ろう自然からのインスピレーションを得た音楽の研鑽を通じ、自分自身としっかり向き合いながら魅力的な社会人となっていく——この人間的成長の一端を担えることは私にとって無上の喜びだと思えます。留學中ラヴェルの難曲スカルボに取り組んでいた時、今は亡き恩師に何度も言われた「Ça vaut la peine!」(苦勞し甲斐があるわよ)をモットーに教育・研究に勤しんでいく所存です。



プロイ教授のマスタークラスにて

新教員紹介

文大に着任するにあたって

都留という地域社会から
日本を、世界を考える

社会学科教授
高橋 洋

4月から社会学科に着任した、高橋洋です。私は、民間企業での商品企画、政府での政策立案、アメリカでの留学（修士課程）などの経験を経て、学問研究の世界に入り、3月までは富士通総研という民間のシンクタンクで、エネルギー政策を中心に研究していました。当大学では地方自治論を担当します。

特にこの5年間は、福島原発事故に端を発する日本のエネルギー問題に深く携わってきました。この問題は、単に脱原発を唱えれば解決する単純なものではありません。エネルギーは社会にも経済にも不可欠で、気候変動問題にも一国の安全保障にも関わります。そのような複雑かつ専門的な課題に対して、単に研究者としてだけでなく、資源エネルギー庁の審議会の委員として、また大阪府市のアドバイザーとして、政策提言をしてきました。

その中でも私が痛感したのは、エネルギー問題に対する地域の役割の重要性です。これまで電力を始めとするエネルギー事業に対して、地域の企業や人材が関わることは少なく、エネルギー政策は国の

専管事項とされてきました。しかし今後、風力や小水力、バイオマスといった再生可能エネルギーを大量導入していくには、地域の人材が主体となり、地域の声を反映させていくことが不可欠です。

ここ数年間では、各地のご当地電力の取り組みや地方自治体の支援策をヒアリングしてきました。福島原発事故前には、都留市が小水力発電に取り組むといった事例は限定的でしたが、最近では長野県飯田市が再生可能エネルギー条例を制定するといった動きが出てきています。国のエネルギー政策が不透明な今だからこそ、地方自治体による積極的な行動が求められているのです。

都留市に限らず小規模な地方自治体は、人口減少や財政赤字など様々な構造的な課題に直面しています。一方で、再生可能エネルギーや農林業に関連した自然資本、コミュニティに根差した助け合い

の人間関係など、地域社会には大都市にはない大きな潜在力があります。これら「未利用資源」を改めて見直し、地域が自らその潜在力を発揮できるようにになれば、同様の課題に直面している日本社会全体や世界を変えることにも繋がります。

都留という地域社会に腰を据え、学生や地域の方々と共に、エネルギー、社会保障、農林業や観光業といった地域の課題を研究し、政策的な解決策を考える。これが、新たな立場を得た私にとっての挑戦です。それは、卒業生を通して全国の地域社会、そして日本社会に波及していくことと信じています。大学の皆様のご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。



ドイツのバイオエネルギー村の風車の前で

新教員紹介

文大に着任するにあたって

フィールドで
考えながら

社会学科准教授

もろずみ
両角政彦

4月より社会学科環境・コミュニティ創造専攻に着任いたしました、両角政彦です。着任前は、日本大学文理学部地理学科で教育・研究に携わって参りました。専門の研究分野は、経済地理学、地域経済論です。主な問題関心は、グローバル経済下における第一次産業の地域的な対応戦略にあり、知識集約型農業の典型である花産業や、日本の基幹の農業部門である米産業の動向に注目しています。

専門で地理学を勉強しようと思ったのは、地球や世界のあり様をまとめて知ることができる場所に魅力を感じたからです。自然、環境、社会、経済、文化にいたるまで、どの側面からでも世界各地を広く学ぶことができる、自由な科学である点に惹かれました。学際領域として、社会学、経済学、環境科学等と深く関わります。

学生時代に研究室の先生方に声をかけていただき、パキスタン・イスラム共和国北部地域の生活環境調査に同行したことが、現在の教育・研究活動の基になっています。その際に青果市場を訪れ、並んでいた野菜や果実を見たときに、日本とほとんど違いがな

いという印象をもったことが忘れられません。

現地を訪問する前に自然環境や社会・経済状況を学んではいましたが、世界の異なる地域の人びとがそれほど変わらない食材を口にしているという、ごく当たり前に思える事実を了解した瞬間でした。また、高冷地で乾燥地という限界地における農牧業も目の当たりにし、それとの比較で日本の農業を考えてみようと思いました。その後、自身の故郷がかつては農業の限界的な地域の特性をもっていたことも認識するようになり、研究の道に進みました。

これまでに授業や研究では海外と国内でフィールドワークをおこなってきました。アメリカ合衆国カリフォルニア州デイビス市の環境と産業に関する授業では、参加学生や大学院生と共同で調査し、研究発表、報告書作成、論文執筆をおこない、現地で一緒に学び成果を残すことの重要性を実感しました。

日本国内では主に第一次産業や農村を対象として、北海道、埼玉、神奈川、新潟、山

梨、長野、沖縄等で調査をしてきました。自然環境と人間活動に関する授業では、学生自ら研究テーマと調査地を設定して調査を企画し、これに合わせて教員も解説等の準備をしながら、学生が現地を案内するプロジェクト学習をおこないました（写真）。

世界各国や国内各地の実状に注目し、地域ごとの類似点と相違点について机上での学習を進めながら、フィールドに飛び出し、そこでさまざまな経験を積みつつ、考えを深めることには大きな意味があるように思います。

さて、都留文科大学は、都留市という場所の特性と社会環境、そして地方都市としての空間の中に位置しています。大学周辺には地域のもつ豊かな学びの場が広がっているように思います。世界と日本と都留市の各フィールドを基にして、学生がハッとする瞬間や場面を数多くつくれるように、学訓「菁莪育才」を胸に、教育・研究に取り組んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。



生田緑地（神奈川県川崎市）にて

新教員紹介

文大に着任するにあたって

環境問題への
〈法的な〉アプローチ

社会学科講師
小島 恵

2015年4月に社会学科に着任いたしました小島恵です。専門は環境法・環境政策で、こちらでは環境法の授業・ゼミの他、共通科目を担当しております。専任講師としての着任以前も3年にわたって非常勤講師を務めており、都留の豊かな自然の中で、環境問題にも関心の高い学生さんたちと環境法の勉強ができるのはとても幸せだと感じておりました。

私自身は東京で生まれ育ち、自然の豊かな場所で育ったとは言えません。それが何故「環境法」というものに関心を持ったのだろうかかと自問してみると、一つには「良好な環境」というものが人間の存立基盤であることに気がつ



青森県八甲田山



ガラパゴス諸島のウミイグアナ

いたこと、そしてもう一つは、他の法律学とは違う「環境法」の面白さに魅せられたことです。

毎年初回の講義は「環境問題ってなんだろう？」というブレインストーミングから始めます。学生さんからは色々な意見がでます。砂漠化、PM2.5、温暖化、絶滅危惧種…。そして私からは、「環境問題」とされるものが時代とともに変遷してきたことをお話します。「環境問題」が常に変遷する以上、法律もそれに対応していかななくてはならない。すると「今後どうしていくのか」という政策論とも一緒に考えていかななくてはならないこととなります。そしてその際には、環境関連の法律に限らず、憲法や民法、行政法といったあらゆる法律との関連を踏まえて議論をしていかななくてはなりません。そこが環境法の最大の特徴であり、面白さだと思っています。講義やゼミではその面白さを少しでも伝えられるようにと試行錯誤を続けているところ

です。

もともと旅行好きではありましたが、環境法を専門とすることに決めた頃から旅先も変わってきました。アラスカの原野に野生生物を観察に行ったり、インドの地方都市を訪れたり、ガラパゴス諸島に渡りイグアナと泳いでみたり、山登りも始めました。豊かな自然をもつ地域がどうやってその自然を守ろうとしているのか。貧しさゆえに劣悪な環境での生活を余儀なくされ、あるいは発展のために環境を犠牲にしなくてはならない地域が、どうすれば「持続可能な発展」を遂げていくことができるのか。人間の影響を無くすことはできなくても、どうすればそれを最小化できるのか。もともとが法律家でありフィールドワークの経験は浅いのですが、遅ればせながら、自分の五感と知識を総動員して、また都留で出会った人たちとの対話を通じて、自然と人間との関係の一つずつ考えていきたいと思っています。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

着任のご挨拶



社会学科講師
福島万紀

4月より、社会学科の環境・コミュニティ創造専攻に着任いたしました福島万紀です。日本や東南アジアなどで営まれる農林業を通じた人々と自然のかかわりについて、教育研究を行っております。

わたしは北海道札幌市の出身ですが、幼稚園の年長～小学校2年まで東南アジアのビルマで暮らしました。そのときの思い出が忘れられず、大学院では、東南アジアのタイやビルマの山岳地域に通い、その地域で営まれる焼畑耕作と森林の多様性について研究をしました。

タイの山岳地域では、標高約800mを超えるとブナ科やクスノキ科の樹木が優占する温帯性の森林地帯が広がり、焼畑耕作はそのような地域で行われています。わたしが2005～2008年まで頻繁に通い、何か月も過ごした山地民・カレンが暮らす地域では、陸稲と何種類もの野菜を混栽する焼畑耕作が営まれていました。

植物に詳しい村人に案内していただきながら、ときには藪に分け入り、村の土地利用について話を聞き、ひたすら植物を調べるような研究を

行っていました。10年に一度のサイクルで焼畑耕作が行われる森林には、老齢林ではあまりみられない多数の植物資源が存在します。タイでは、人間が利用し続けることで保持される森林の多面的な価値について学んできました。

大学院を終了後は、日本の山村における人と自然のかかわりについて知りたいという思いから、島根県中山間地域研究センターの山村常駐スタッフとして、研究を行ってきました。島根の山村では山を利用する生業活動が縮小し、ナラ枯れなどの問題がおこっています。その一方で、山村の生活文化や農林業についてお話をうかがえようかというほど、山村には「生きるために必要なものは何でもある」こと痛感してきました。山村暮らしの達人に多くのことを教わりながら、移住者の友人らと交流し議論してきた島根での経験は、わたしの教育研究の大きな財産となっていることを痛感しています。

昨年1年間は、信州大学農学部を拠点とする研究員として勤務し、農山村における鳥獣害問題について学ぶ、社会人むけの講座の企画を担当してきました。近年、シカやイノシシ、サルなど

が里に出現し、農地を荒らす被害が増加しています。有害鳥獣の個体数を減らすための捕獲や駆除が行われていますが、動物の命が落ちる瞬間を見届ける猟師の思いは、やはり命を食べ物としていただくことにあるのであろうとおもいます。これからも、農山村に暮らす人々に学びながら、人と自然の新たな関係の構築を模索する教育研究を行っていきたいと考えています。

都留文科大学では、「農山村と農林業再生」という専門科目や、社会学科の環境・コミュニティ専攻のフィールド実習を担当しています。今年度は主に日本の農山村や農林業について講義を行っていますが、講義をすることで私自身がたくさんのことを学んでいます。

多くのことを要領よくこなせるタイプではありませんが、新しい出会いを大切に、ひとつひとつのテーマに時間をかけて取り組みたいとおもいます。どうぞよろしく願います。



島根県浜田市弥栄町（旧那賀郡弥栄村）の炭窯の前で。
(2012年3月)

新教員紹介

文大に着任するにあたって

ふたたび専門の道へ



比較文化学科准教授

佐藤 裕

山梨に家族で移り、本学に着任してからはや3か月が経ちますが、ようやく新天地になじんできたように思います。比較文化学科では国際社会論の担当として採用され、同分野での授業や演習、そして地域研究や地球環境・開発論などの科目を担当しています。私がかねてから志していた、社会学を切り口とした国際開発論や南アジア地域研究の領域での仕事に専念できることに、望外の喜びを感じています。

本学に着任するまえは一橋大学、そして秋田の国際教養大学で仕事をしてきました。一橋大学では特任講師として5年半にわたり、社会諸科学を専攻する大学院生のキャリア支援に携わってきました。キャリア支援といえども私の場合は就職支援ではなく、院生たちの悩みに耳を傾け、進路や研究活動に対してささやかな助言をすることがおもな業務でした。そのかわりで、研究資金の獲得や留学、研究と家族との両立などをテーマにしたイベントを企画・開催するなど、私がいまでも苦手とする業務にもかかわってきました。国際教養大学ではグローバル・スタディズ課程という学科組織に所属し、社会学関連の授業を担当していま

したが、日々の業務は私が兼任を務めた能動的学修支援センター附属アカデミック・キャリア支援センターが中心でした。そこでは、国内外の大学院進学をめざす学部学生からの相談に応じ、関連のイベントを開催してきましたが、その結果、少なからずの学生が合格を果たすなど、得がたい朗報に接してきました。

本学ではこれまで私が細々と続けてきた研究や現地調査を進めるとともに、それを教育に還元することを目下の課題としています。とくに授業では、途上国という「遠い世界」に学生の目を向けさせ、現地滞在の醍醐味を伝えることを模索中です。私自身、学部学生のころにNGOのスタディーツアーに参加し、その後、現地語はおろか英語も話せない状態でインドを再訪問しました。現地では貧困のなかをたくましく生きる人々、とくに女性の姿が印象的でした。そのためか、大学院に進学した当初は国際協力の道を模索していました。しかしながら、学びを深めるなかで〈外部者〉として開発問題を解決するよりも、〈研究者〉として貧困や差別をつくりだす社会構造や、こうした構造を変革しようとする人びとの主体性や連帯を、現地調査を通して理解することに関心が移りました。

気づけば博士課程の院生としてインドに戻り、ニューデリーにあるジャワハール・ネール大学に5年にわたり留学をしていました。博士論文では、国際機関の援助を

背景に行政とNGOが進める住環境改善事業を取りあげました。とくに女性たちが担うNGOのコミュニティ開発がスラムにも残存するカーストやジェンダーの不平等を是正するどころか、経済的支援や生活機会の拡充を通じて強めていたことを実証しました。

インド留学後はイギリスにわたり、1年間研究員を務めました。そのころから、資源配分をめぐる社会集団間の権力関係の分析という現在の研究テーマが定まったように思います。

本学では授業を通して、学生たちから学術的なポテンシャルを感じ取っています。前任校で培った学生支援のノウハウを活かしながら、研究やフィールド調査の醍醐味を伝えていける教員をめざす所存です。



グジャラート州アーメダバード市のスラムにて。10余年間、断続的に現地訪問を繰り返していますが、当面の目標は英語でモノグラフを出版することです。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

映画学への誘い



比較文化学科准教授
志村三代子

私は、大学卒業後、企業に就職し、5年間務めた後に早稲田大学大学院文学研究科に入学しました。「映画が好き」というほんの軽い気持で映画学を選びましたが、学部では商学部だったため、映画学に必要な基礎学力を習得するのに、随分苦勞をいたしました。とはいえ、スクリーンに映されたあらゆる事象を取り扱うことが出来る映画学にひかれ、迷いながらも様々な研究に従事してまいりました。たとえば、修士論文では、「怪猫」という日本独自の恐怖映画の特徴を考察し、博士論文では、従来は戦前の人気作家、『文藝春秋』の創始者であり出版ジャーナリズムの先駆者としての側面でしか捉えられていなかった菊池寛の日本映画界における役割を検証し、現在は、映画の草創期から現在までのハリウッド映画に描かれた〈日本〉表象の変遷を研究しているといった具合です。研究の傍ら、早稲田大学演劇博物館21世紀COEの研究助手時代(2005～2006年)は、「幻の映画」と呼ばれたジョセフ・フォン・スタンバーグ監督の『女の一生』(1929年)を当時の指導教授たちとともに中国大陸で発見するな



2015年5月31日に沖縄県国頭郡宜野座村文化センターがらまんホールで行われた『戦場よ永遠に』特別上映会の様子

ど、現在もフィールドワークに関心があります。さらに、過去二回にわたって、日本映画の黄金時代に活躍した映画スターたちを研究し、その成果を研究書(『映画俳優 池部良』2007年『淡島千景 女優というプリズム』2009年)としてまとめ、研究書の出版に併せて民間の映画館や地方自治体と共催で上映会を企画運営することで、映画を用いた地域交流に努めてきました。往年の日本映画は、高齢者の人気が高く、今後ますます高齢化社会が進んでいくなかで、日本映画の企画・上映を行うことは、地域の高齢者の福祉を考える上でも重要な役割を果たすと考えています。映画は、演劇、文学、絵画、音楽といった先行芸術の素材を貪欲に取り入れることで、20世紀の大衆文化をリードしてきました。文学、歴史学、社会学といった様々な既存の学問の方法論を採り入れ、映像を通して現代社会が抱える問題

に肉迫する、きわめて直接的なメディアを扱う映画学の魅力に、文字通りどっぷりとはまっております。

これまでの研究活動を活かして、教育の面では、映画を中心とした日本の大衆文化、ハリウッド映画史、メディアの公共性に関連した授業を通して、基礎的な学力に加え、ものごとを多角的に捉えて自分自身で考えることができる、自立した学生を育成することを目指しています。

出身は大阪市ですが、千葉市に居を構えて来年で20年になろうとしています。本学に着任するにあたって、八王子に転居し、勤務日に合わせた一人暮らしをはじめました。10年ぶりの一人暮らしを、新鮮な気持ちで楽しんでおりますが、いつまでもこの気持ちを忘れず、学生たちと接していくことが当面の目標です。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

世界に通用する
教育者・人材育成を

国際教育学科(仮称)

準備室 教授

茂木秀昭

今年度、4月に国際教育学科準備室に着任しました、茂木秀昭です。2年後に開設予定の新学科では、国際バカロレア教育ができる教員養成やグローバル人材育成などをおこなう予定です。私は、慶応義塾大学文学部英米文学科を卒業後、故郷の群馬県の高校で英語の教員になりました。その後、コロンビア大学大学院ティーチャーズ・カレッジで英語教育学を専攻し、ティーチャー・トレーニングを体験しましたので、この度、教員養成で長年の実績と定評がある都留文科大学で、教員養成ができることを大変嬉しく、また光栄に思っております。本学に来る前は、栃木県の自治医科大学で、卒業後は全国の地域医療に携わる医学生に、英語やコミュニケーション科目、アメリカ文化・文明論などを20年間教えていました。その間、アメリカ、シンガポール、タイ、モンゴル等の大学との交流プログラムに携わったり、交換留学の提携先のコーネル大学で講演をおこなったり、インド、台湾などのアジアからの留学生に大学院で英語ディベート等を教えていました。英語討論テキストの出版や、韓国・台湾で翻訳出版された著書もあります。それ以前は、京都ノートルダム女子大学で3年間、英文科コミュニケーション



看護師長対象のディベート研修の様様

コースで教鞭を執り、コミュニケーション論などを教えていました。

国際バカロレア (IB) というのは、ヨーロッパ発の、グローバルに通用する教育プログラムで、小・中・高校で、従来の知識暗記型の受験教育ではなく、探求型のアクティブ・ラーニングをおこなうものです。そうした教育を、小・中・高でできる教員を養成することが、新学科の主な役割になります。IBの教員資格があれば、海外のIB校でも教えることができます。

私自身は、大学時代に、様々な国際問題や社会問題に関して、英語ディベートを4年間おこない、それまで受けてきた受験教育とは全く異なる、議論を通じた探求型の教育手法に魅了され、ディベートを日本の教育の中に取り入れようとこれまで取り組んできました。研究テーマとしては、ディベートの手法を取り入れた英語教授法や教材の開発、米国大統領選挙を通してみるアメリカ的価値観の変遷、西洋的なレトリックに対比した日本の伝統的レトリックへの文化的影

響、などです。日本の言論風土にディベートがどうすれば受容できるかという試みもその一つですが、表面的な誤解が根深くある中で、著書等を通じてその意義や効果を訴えてきました。ディベートは、相反する両面から問題の本質を探り、論理的な議論を深め合って、合理的な問題解決・意思決定や課題探求をするための手段です。これまで、様々な分野の要請に応じて、ディベート研修を、教員、官僚、企業人、医療関係者や地方自治体職員等を対象に全国各地でおこなってきました。現在では、学校教育にも取り入れられ、漸くその教育効果も一般にも知られるようになってきました。その一つが、論理的な思考力・表現力やクリティカル・シンキングの養成で、それはバカロレア教育の主眼でもあります。バカロレア教育とディベート教育のそうした共通点を踏まえて、グローバル化の時代に、日本文化に基づいた、日本人ならではの貢献が、地域でも、世界でもできる人材の育成をしていきたいと願っています。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

10年後の子どもたちのために



初等教育学科
特任准教授
布山浩司

私は東京藝術大学美術学部彫刻科を卒業、同大学大学院を修了し、母校の特別研究員として3D技術を用いた美術アーカイブの研究に携わってきました。

ここでは歴史的に重要な芸術作品をデジタルアーカイブに保存、教育に活用するための研究を進めています。2010年にはICT技術や3Dプリント技術を活用した明治

期の彫刻技法に関わる研究として荻原礫山作「女」（重要文化財）を3Dデータ化し再現する活動をしました。

みなさんは「3D」と聞くと、先端的で難しい技術というイメージがあると思います。確かに10年ほど前まではそうでした。私の子どもの頃は、絵の具で絵を描くことや、粘土や木で工作すること



荻原礫山作「女」デジタルデータとデジタル化作業風景

は当たり前でした。しかし今ではパソコンを使い、筆や手の代わりにソフトを使ったり、誰でも簡単に映像や3Dを扱ったりできる時代になりました。

これからの子どもたちは、鉛筆やクレヨン使うようにデバイスを使ったり、プログラミングをしながら考えたりするようになると思います。

このように世の中で刻々と広がり続ける3Dなどの新たなデジタル技術の可能性を、どのようなアプローチで今の教育に融合していくべきか、私自身も本学の活動を通して考えながら、3Dと美術の研究を一層進めていきたいと思っています。

HELP STUDENTS
MAKE UP THEIR
OWN MINDS

英文学科
特任准教授
Hywel Evans

I started working as Adjunct Associate Professor in the English Department at this university in April. However, I've been here a long time, working as a part-timer; about twenty years, actually! Before coming to Japan, I worked in the U. K. and Sudan in north Africa.

My main focus is Theoretical

Linguistics. I got my Ph. D. from the School of Oriental and African Studies, the University of London. I'm particularly interested in the debate surrounding Nature and Nurture in the development of human language. Did a human language faculty evolve intact and pre-packaged in the mind, or did our ability to use language emerge from distinct capacities: our ability to perceive each other as participants in culture, for example. However, I'm also interested in a number of related fields. It's a particularly interesting time because new suggestions are emerging from the so-

called Cognitive Linguists, informed by new theories with a sociocultural leaning. Generally speaking, I think it's a good idea for students to look at a variety of competing theories so that they can make up their own minds.



講義 (Introducing Mt. Fuji) の様子

新教員紹介

文大に着任するにあたって

国際交流、中国語教育、
文学研究

国際交流センター
特任准教授
周 非

国際交流センターの周非です。本学では中国語の授業を担当しながら、アジア圏の留学業務を担当しています。

8年前に都留文科大学の中国語非常勤講師になり、中国語教育について論文を書き始めましたが、博士課程までの専攻は日本近代文学でした。今は、国際交流業務、中国語教育、日本近代文学研究を同時にやっておりますが、今後、研究テーマの中に日中近代文

学の比較を加えたいと考えています。

私は中国出身ですが、13年前に日本にきました。この13年の間で、前半は主に日本文学を学び、日本文化に慣れるように努めてきましたが、後半は自分の固有の文化を生かし、母国語を使う仕事をしてきました。文学研究は国際交流の仕事とまったく関係がないように見えますが、実は、私の文学研究のキーワードは今の国際交流の仕事のキーワードにもなっています。それは「相対化する」ことです。文化は言語によって作られたものに

過ぎない、一度外国で生活してみれば、自分の今までの人生が相対化される、このことをいつも留学のオリエンテーションで話します。これからは、日中近代文学の比較を通して、更に「相対化する」ことの意味を深めていけたらと考えます。



中国陝西師範大学夏期語学研修引率

未来に繋がる種蒔き



国際交流センター
特任准教授
桑原奈智子

このたび外国語教育研究室に特任准教授として着任致しました桑原奈智子です。本学には平成13年より非常勤講師としてお世話になってきました。専門は中国語歴史文法と中国語教育ですが、音韻についても興味を持っています。

仕事を辞め、それまで貯めたお金を持って中国に留学したのが、現在に至る人生の始

まりでした。留学終了後、日本語教師として現地の大学の教壇に立ち、帰国後は中国語の翻訳の仕事に従事。更なる学びを求めて大学院に進学。修了後は非常勤講師として中国語を教える仕事に恵まれました。経済的には大変でしたが、次々と湧いてくるやりた



シルクロードのオアシス都市「トルファン」郊外にある遺跡「高昌故城」にて。インドに向かう三蔵法師が滞在した場所でもある。

いことに取り組むことが許されてきたことは本当に有り難く、深い感謝の気持ちで一杯です。実際には、やりたいことができない時期もありました。でも、その時々において、自分にできることを精一杯やってきたことだけは確かです。これからも、微力ではありますが、与えられた場所で私にできることを精一杯やっていきたいと思います。それが、皆さんの人生に素敵な種を蒔くことに繋がりますように……。どうぞ宜しくお願い致します。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

子ども・教育の
ステキを伝えたい

教職支援センター
特任教授
宮下 聡

ゲスト講師として初めて都留文科大学を訪れたのは10年以上前。まだ「都留文科大学前駅」が開業していないときでした。自然の緑に囲まれた大学と素朴な学生の雰囲気、心が和んだことを覚えています。その後、非常勤講師としての期間もありましたが、都留を訪れることはずっと私の大きな楽しみになっていました。ですから、そんな都留

文科大学で特任として第二の教師人生を送ることができるのは大きな喜びです。

中学校教師として過ごした36年を振り返ると、そこにはいつも困難を抱え、教師としての私を鍛えてくれる子どもたちがいました。最後の年も、「いじめがあっていじめのない」クラスの担任としてのスタートになりましたが、最後は「このままのクラスで進級したい」という子どもたちの声に包まれ、「宇宙一幸せな中学教師」として退職の日を迎えられたことを感謝しています。

私の所属する教職支援センターは、現職教師や教師を志す学生の大学での学びと実践現場を結びつけることを主な

課題としています。子どもたちとの別れの日、「もうみんなと一緒に勉強することはできないけれど、みんなのステキをこれから先生になる人たちに伝えていくからね」と話した私の思いを、この都留文科大学で学ぶ未来の教師たちに語り、学校現場の若い教師たちを応援していきたいと思っています。



教職支援センター2前で学生とともに

教師である喜びと
子どもの幸せをつなぐ

教職支援センター
特任教授
山崎隆夫

東京都の公立小学校の教諭として38年間クラス担任を続け、その後、本校の非常勤講師として5年間、臨床教育学、生活指導論、学校教育実践演習、臨床教育学ゼミ等の講義を担当してきました。私は、本学の学生たちの人間的魅力と素直で真摯な学びの姿に励まされ、共に過ごすことの喜びを感じてきました。

90年代を過ぎる頃から、

子どもの変化に戸惑い、指導の難しさを感じるが多くなりました。パニックになる子、閉じこもる子、キレる子の存在、いじめ・学級崩壊問題、さらには「生きることの意味」を問う子どもたちの登場などです。

この問題にどう対応すべきか、さらには、時代の激しい変化の中で、揺れ動く子ども



満開の楽山公園紫陽花の前で、
ゼミの学生たちと…

の心や人格形成の問題をどう見るか、それが深刻に問われました。私は、指導の困難を伴う子どもの表現・表出の中に、彼らの生きることへの熱い“願い”や“葛藤”があることに気づきました。そして、子どもの持つ『危機と可能性』について考え、具体的な指導のあり方を検討し、私なりに問題を切り拓いてきました。

この経験を生かしつつ、教職を目指す学生たちや、日々子どもの現実と向きあい格闘している今日の教師たちの「子ども理解」「授業づくり」「学級経営のあり方」などに少しでも役立つ仕事、展望を切り開く仕事ができればと考えています。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

良質な交流が可能な
学級集団育成を
サポート

COC 推進機構
特任教授
品田笑子

4月にCOC推進機構の所属となりました品田笑子です。1991年に当時の文部省が「どの子にも不登校の可能性がある」と発表した背景には子どもたちの対人関係の体験学習不足が考えられました。学級崩壊、いじめ、さらに引きこもり、ニート、フリーターなどもそれと無縁ではありません

ん。対人関係能力を身につけるためには、良質な交流が可能な集団が必要です。現代は学級集団にその機能が期待される時代です。25年間の小学校教員を経て2007年からは大学教員の立場で間接的にサポートする立場になり、山梨県内だけでなく様々な地域の学校現場を訪問する機会がありました。研修会の講師としてかかわったり、学級経営の相談に乗ったり、授業も拝見したりする中で、学級集団育成の大切さと同時に困難さを痛切に感じる日々です。教師サポートを通して、子どもたちの健全な成長を育む学級集団育成にかかわって行けたら



先生がたとQUの結果を
分析している様子

と思います。また、山梨県内だけでなく全国の学校を訪問する中で都留文科大学出身の先生方にたくさん出会いました。必ず声をかけてくださり、大学時代を振り返って懐かしそうに思い出を語られるのが印象的でした。そんな同窓生のお役にも立てたらうれしいと思っています。

地域の自然と人に学ぶ



COC 推進機構
特任教授
北垣憲仁

4月にCOC推進機構の所属となりました北垣憲仁です。本学の初等教育学科で動物学を専攻しました。学生時代は、授業が終わると大学の裏山に観察に出かけるという毎日を過ごしていました。キャンパス周辺に野生のムササビやニホンリスが生息する自然環境は、まさに日々あらたな発見がある生きた博物館だったのです。

本学を卒業後、私は、都留でムササビなど生きものとの出会いを楽しみ、人びとの暮らしや自然からじかに学ぶ

ことを大切にしようというフィールド・ミュージアムの取り組みに参加しました。2003年には本学に地域交流研究センターが発足し、その一部門であるフィールド・ミュージアムの事業の一端を昨年度まで担ってきました。

フィールド・ミュージアム部門では自然観察会や展示活動など多様な実践をしてきま



2010年、東京国立科学博物館と本学との共催による「大哺乳類展」の様子。入場者数は30万人を超え、本学の学生も解説員として活躍しました。

したが、それらは決して一朝一夕にできるものではありません。大学と市民との長く深い交流の歴史や、諸先生がたの豊かな実践・思想が私たちの大きな支えとなっています。

2010年、本学と東京国立科学博物館との共催で「大哺乳類展」が開催されました。

地域交流研究センターでもこれまでの取り組みの成果を全国の多くのかたがたと共有する貴重な機会となりました。

地域の自然と人に学ぶという本学のフィールド・ミュージアムの理念とこれまでの諸実践を大切に受け継ぎながら、COC推進機構でも教職員・学生・市民のみなさんと都留文科大学らしい地域交流のあり方を探究していこうと考えています。どうぞよろしくお願いします。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

豊かな水環境の保全と
地下水管理をめざして

COC 推進機構
特任教授
内山美恵子

COC 推進機構に着任しました内山美恵子です。2010年度から非常勤講師（地学担当）をさせていただいていました。私は当初、博物館学芸員を第1志望、中学・高校理科教員を第2志望として、講師をしながら教員採用試験に取り組んでいましたが、事情により地質コンサルタント会社に就職しました。そこで地下水関連業務を担当して現場経験を積む中で水環境に対

して強い関心を持つようになり、大学に戻って人と自然との関わりを地層から読み取る事を課題とした研究室で学びました。そのことから、私は日本の他の地下水研究者と毛色が異なり、地質学をベースにした地下水研究をしています。つまり水循環の中で水がどの地層を流動し湧水するのか、についての研究が専門です。地下水は流動の過程で地層中に含まれているミネラル成分などを溶解して取り込み、その地域独特の地下水が出来上がります。都留の十日市場・夏狩地区はとりわけ富士山からの湧水の恩恵が厚く、水に関心の高

い方が多いように思います。また、水は地域の動植物も利用しており、豊かな自然環境を保全するために無くてはならない重要な資源です。地域の方々と共に学び、調べ、話し合いながら、湧水の保全や自然に負荷をかけない水の利用方法などについて探っていきたいと思っています。



八ヶ岳の湧水調査講習会にて

特任教授を拝命して



キャリア支援センター
特任教授
楯守光恵

30年間勤務した大学を卒業し、今年度、特任教授という形で再びお世話になることになりました。この30年間の中で、約半分の時を入試関係の部署で働かせていただきました。全国の高校訪問をする中で、降り立った駅前の景色を眺めながら、その土地の空気感を楽しんできました。時には無人駅で途方にくれることもありましたが、都留に来てくれた学生、そして送

り出してくださったご家族を思いこみ上げるものがありました。全国を旅しながら、そこに生きるやさしい人々、熱心な先生方、生徒さんたち、又、電車の中で聞く方言の心地よさなど、沢山の経験をさせていただきました。

子供の数が減り、入試の形態が変わり、厳しさを増す教員への道、就職への厳しさの中で最近、教員の資格を国家試験に、という案が出されています。都留文科大学が、優秀な学生を育て、社会に貢献



卒業演奏会

していける人間教育をさらに発展させていくためにも、これからの数年間、全国の高校を訪問し、精力的に動いていきたいと考えています。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

都留文科大学の
魅力をアピール

キャリア支援センター
特任教授
牛山 恵

私は昨年度まで国文学科に所属しておりましたが、定年を迎え、今年度からは国文学科の非常勤講師として、また特任教授（キャリア支援センター）として、引き続き本学に勤務させていただいております。

これまで何度か、出前講座や大学説明のために高等学校を訪れたことがあります。都留文科大学について興味を

持っている生徒が多くはないことに気づきました。長いこと本学で教鞭を執ってきて、本学の汲めども尽きない魅力を知っている私は、高校生の進路選択の選択肢の一つに、本学があげられることを切に望んでいます。本学は、勉学の環境において、他大学のどこにも負けていないと自負しています。そこで、高校生に本学の魅力をアピールするために、大学説明での高校訪問や出前講座を行う特任教授の任につかせていただきました。

高校生には、本学のすばら



2015年度新歓コンパの様子

しい自然環境や優秀で人間味あふれる教師陣のことや整備され充実した学習のプログラムのことや楽しい学生生活について伝えたいと思っています。

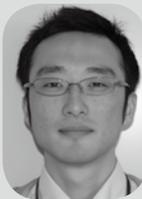
本学の魅力や情報で、私の知らないことはたくさんあるはずですが、ぜひ、お教えください。

新採用職員紹介



佐々木祥介：学生課キャリア支援センター担当

学生課キャリア支援センターに配属されました佐々木祥介と申します。これまで首都圏の私大で、図書館担当として学習・教育支援に携わってまいりましたが、就職・キャリア支援の職務は初めてになります。一から勉強の毎日ですが、学生が希望の進路を掴むことができるよう尽力してまいりたいと考えます。



栗賀 暁：学生課教務担当

都留文科大学学生課教務担当に配属されました栗賀暁と申します。学部、院と6年間都留文科大学で様々なことを学んできました。都留で過ごした時間を職員として活用できるように、また一から勉強しなおして学生や大学に関わるみなさんのお役にたてるように頑張っていきたいと思っております。



渡邊誠大：経営企画課企画広報担当

4月より都留文科大学の事務職員となりました渡邊誠大と申します。都留市で生まれ育ったため、幼少期より身近な存在であった文大で働くことができ非常に嬉しく思っております。企画広報担当として日々業務に邁進いたしますので、今後ともよろしくご依頼致します。

学外研究報告



初等教育学科教授
佐藤 隆

着任後17年目にして初めて在外研究の機会をいただいた。主たる研究場所を科研費の共同研究者でもある法政大学の佐貫浩教授の研究室と定めたが、研究のフィールドとしている岐阜県恵那市にある恵那教育研究所に出入りすることも多かった。

彼の地は、生活綴方教育を中心とする教育実践で「恵那の教育」とよばれたほど教育界ではよく知られた場所である。

その恵那をフィールドとしたのは、「学習意欲の低さ」や「いじめ」の頻発と深刻化が問題となっているいま、生活事実と学習を結びつけ本音で話し合うことを追求する生活綴方教育の現代的意義を探らなければならないと考えたからだ。

恵那にはこれまでも何度も足を運んではいたが、今回腰を落着けて資料を探してみても驚いた。「恵那の教育」の中心人物の一人である石田和男氏の1950年代の教育実践資料がそのまま残されていたからだ。彼の「デビュー作」といえる『夜明けの子ら』（1952年刊行）に掲載された子どもたちの版画



学習テーマを自分たちで決める子ども自治会

「教育の民主主義」を考えた1年間 はじめての在外研究を終えて

や綴方作品がすべて残っていたし、恵那教職員組合書記長時代の「転換の方針」の生原稿なども見つけ、当時の生々しい実践と思索の歩みをたどることができた。

ところで、この「転換の方針」については少し説明が必要だろう。1950年代後半の勤務評定反対闘争において、恵那の教師たちは、日本教職員組合本部からの指示による「力対力」の闘い方を拒否して、教育行政や親とのていねいな対話のなかで合意を生み出そうとした。これは当時の労働組合運動の常識を覆したという意味で「転換の方針」とよばれた。それだけでなく方針書自体も、方針書にありがちな勇ましい闘争課題を掲げるかわりに、自分たちの弱さを見つめ、それはなぜかを自問自答する、石田和男自身の「生活綴方」であったという点でも異例のものだった。そこには「何も話し合わないで決まるよりは、みんなで話し合って決まらない方がよい」とする、楽天性と個人

の自由を徹底的に尊重する精神があふれている。60年も前に、このような民主主義実践があったことに驚きと感動を覚えるが、今こそこれに学びたいと思う。

海外出張でも収



一緒に議論したフレネ実験学校の職員会議

穫があった。南仏ラ・シオタにあるフレネ実験学校の教師たちと交流を持てたことだ。フレネ教育は、子どもの生活から生まれる表現を教育活動の出発点にしている。この点も含めて、生活綴方教育との接点を数多く持つ教育である。

2週間にわたって、毎日学校へ通い、夜は毎晩と言ってよいほど交流会に招かれた。そのなかで、教師たちの子どもへの思いや同僚たちとのかかわり方、そして彼らの生き方に触れることができた。そこには恵那の教師たちと同様の楽天性と自由があった。なによりも彼らの仕事ぶりを見てみると「教育とはこんなに楽しいものなのだ」とあらためて思わされた。

いま、一年間を振り返ってみると、さまざまな反省も残る。それでも、今後の研究の方向を立ち止まって考えることができたということでは貴重な時間だった。

快く送り出してくれた学科のみなさん、特に教育実践学系の鶴田清司、田中昌弥の両氏にはこの場を借りてお礼を申し上げたい。

学外研究報告



国文学科教授
佐藤明浩

2014年度前期に学外研究の機会を与えていただいた。研修のため大阪大学大学院文学研究科に受け入れてもらい、加藤洋介教授の大学院演習に出席することを得た。授業で取り上げられたのは、一条兼良著『源氏物語年立抄』。源氏物語の年立（としだて）は、主要登場人物の年齢を記しつつ物語中の出来事を年表風にまとめたもので、現代の注釈書にもまま付載されている。年立というそれまでは物語を理解する一助くらいにしか考えていなかったけれども、それを研究の対象に据えてみることで、例えば人物の年齢比定の方法、各巻間の叙述の整合性など、さまざまな問題が浮上してくることを知った。上記『年立抄』（これは「としだちしょう」と読むらしい）



大阪で参加した「俊頼髓脳研究会」
（於：相愛大学）の一齣

学外研究報告

は、年立をまとめた書としては現存最古だが、登場人物の年齢考証は『河海抄』など従前の源氏物語注釈書にもみられた。当該授業には源氏物語そのもののほか、注釈書を研究している学生も複数いて、発表や議論から教えられることが多かった。室町時代の代表的文化人、著者一条兼良について知見が深められたのも有益である。

自身の課題としては、院政期和歌文学に関する研究を一書にまとめることを目標とした。新たに論を執筆するほか、既に公表した各論文の総点検、修訂をすすめた。前者はある程度順調にはかどったものの、後者はかなり難渋し、結局作業は次年度にまで持ち越さざるをえない結果となっている。例えば、かつて活字本によって検討していたところを、あらためてそのもととなる写本の本文を確認してみると、補足や修正を加える必要が出てくるなどのことがあり、予想以上の労力を要している。ただ、そうした資料の見直しなども、半年の研究期間を与えられたからこそできたことであり、まとまった時間を研究に割けることの大切さとありがたみを実感した。

大学院の授業に出席するために大阪に出向いた折には、大阪、京都または神戸方面で文献資料を閲覧するほか、史跡を訪れる、博物館・美術館の展示を観るなどした。それまでもしばしば訪れていた京都ではあるが、例

えば泉涌寺から東福寺さらに伏見稲荷に至るルートなどはこの機会にはじめて踏査できた。神戸市立博物館で開催の「ポストン美術館浮世絵名品展 北斎」などは、東京での展覧よりも一足早く、じっくりと（東京だと数倍混雑していたと思われる）観ることができた。また、東京においても、例えば、サントリー美術館「徒然草—美術で楽しむ古典文学」では、『徒然草』全編に絵を付した新収の絵巻が展示されたが、展示替えの日程に合わせて二度ゆっくり観ることができた。普段はあわただしさの中で見逃してしまうこともあるこうした展覧の類に思うように接することができ、そうした副産物的な事柄によっても養われるところが大きかった。

大阪で継続的にもたれた「俊頼髓脳研究会」には初期から参加していたが、近年、授業・学務等のある時期はなかなか出席する機会を得なかった。その研究会にも学外研究期間には連続して出ることができ、さまざまな知見・情報を得た。ちなみに、今年5月、20年以上にわたって続いたこの会も最終回を迎えたのは感慨深い。終わり近くに出席頻度を高めることができたことは幸いである。

まとまった研究期間を与えられることの意義は多岐にわたり、大きい。今後も教員諸氏が学外研究期間を存分に利用され、それぞれの研究が醸成されるよう、願っている。

学外研究報告



社会学科教授
高田 研

まず、この貴重な時間をいただきました大学。事務スタッフのみなさん。そして同僚の教員に感謝申し上げます。主に以下の3つのことにこの1年取り組みました。

I 高校生のエンパワーメントに関する研究

これは1年間早稲田大学に席を置かせていただいた研究です。これまで10年間徳島県の公立高等学校において、当該高校の先生たちと共に研究してまいりました参加型授業の取り組みを、高校生のエンパワーメントという視点から論文にまとめました。

吉野川中流域にある元実業高校が学校再建をかけて授業研究に取り組んできました。それは「荒れ」を上から力づくで克服しようという伝統的生徒指導から、「生徒の声に傾聴し、自分を語る言葉を持たせる」生徒指導方針の転換でした。この改革を周囲から支えてきたものは、地元就職して町を支えているのはこの青年達であるという地域の自覚でした。進学に舵を切ろうとしたことに釘を刺したのも地元の強い意志でした。



コーディネーターの打ち合わせをする宮下さん
(安佐北ボラセンにて)

「地域人」を育む2つの取り組み ～高校改革そしてエコミュゼ～

これは郡内でも同じことがいえるのではないのでしょうか。大学進学装置としてしかみられない高等学校を“地元民育成”という立場からアイデンティティを回復させていく取り組みであったとも言えます。

私は富士北稜高校で委員をさせていただいておりますので、研究成果を学校運営に還元させていただこうと思っております。

II エコミュージアムに関する研究

これまで国内外において、エコミュージアムの研究をすすめております。昨年はフランス南部地域における代表的なRoudouleeというエコミュージアムのフィールドワークを行いました。

この地域はフランス南東部、イタリアと国境を接する場所にある観光都市ニースに隣接しています。県人口の8割を越えるニース市とその周辺の平地部に対して、県面積の8割は1000m級の山岳地帯です。石灰岩質の切れ込んだ深い谷間と比較的なだらかな山稜の上に小さな集落が点在しており、そこに2割弱の人々が暮らしています。

ミュゼのコア施設は、富士急行と同様に地元住民にとっては生活鉄道であるプロバンス鉄道で約1時間のプロジェクト



エコミュゼスタッフと通訳の矢羽さん

の町から更に山道を約30分ばかり入った山の傾斜地にある小さな町にあります。観光地ニースに隣接しながらも観光で訪れる人は皆無です。この点も都留市と似ており、またミュゼのテーマとして湧水の利用を掲げている点も類似しています。

詳しい報告は機会がありましたらさせていただきたいと思っております。一昨年都留市で開催しました国民文化祭「里地里山里水」分科会の成果を具現化させていくことに役に立てていきたいと考えております。

III 広島土砂災害支援

広島からの要請を受けて、災害ボランティアサークル代表、国文4年生宮下凌瑚と共に安佐北区社協のボラセンに入ってボランティアコーディネートを8月29日から9月15日まで実施いたしました。

宮下は現地社協からその能力を高く評価され、その活躍は山日新聞(9月8日)でも大きく取り上げられました。

今後は富士吉田の中学教員として“地元”での活躍が期待されます。宮下は地元民育成の役割を担う富士北稜高校の卒業生です。

学外研究報告



比較文化学科准教授
岸 清香

2014年度は学外研究の機会をいただき、10年ぶりに大学院に通いつつ調査研究に専念した。ポスト冷戦期のアジアの現代美術（現代美術のグローバルな展開）に関する研究の一環として行った取材のエピソードを、いくつか振り返りたい。

今回新たに取材したのがギャラリストやコレクターなどアジアの美術を「流通」面で経済的に支える人々、および「生産者」であるアーティストたち（数年来タイミングを計りかねていた）である。数多くの印象的なインタビューのなかでも心に残っているのが、インド系タイ人作家、ナウイン・ラワンチャイクン氏から聞いた現代美術ネットワークの急速な広がりについてである。朝日新聞が「アジア現代美術ブーム（日本



9月、福岡でナウイン氏の熱のこもったトークの後、作品（恩師とその家族の時空を越えた肖像画）の前で。

アジアの現代美術を訪ねて

先行論に再考迫る）」と報じた1994年、福岡の「アジア美術展」のため大学卒業直後初来日し、これをきっかけにアジア太平洋から世界のアートシーンへと活躍の場を広げてきたアジア現代美術の「申し子」の一人である。その彼が第5回福岡アジア美術トリエンナーレの関連展「House of Hope: Homage to

Montien -A Letter from Navin] で2000年に急逝した恩師（タイ現代美術の父といわれる）への追悼作品を展示するとともに自らの活動を振り返る講演を行うという。この機会にインタビューをとりつけ、急激な「ブーム」のなか、いかに世界で渡り合ってきたのか、20年間の活動の舞台裏を4時間にわたって聞いた。これからは初心に戻り身近な人々や自分のために作品を作りたい、とのひと言に、アジア現代美術生成期における葛藤と可能性を感じた。

5年ぶりに訪れたフランスでは、社会科学高等研究院を中心とする芸術社会学・経済学の先学と意見交換し、研究動向をアップデートすることができた。ここ数年で大学・研究機関での世代交代が進み、留学時代の知人が奮闘している。現代美術についても学問領域の垣根を越えた研究会や共同研究が盛んになり、いまや一大勢力となったアジアへの関心も増大してい



2月、パリでなのおつづく現代美術論争の会場。賛否両論止まぬ展開に挑戦する中央のエニック氏。

る。その一方で、公的機関が優遇してきた現代美術（そこにアジアも含まれる）への批判には根強いものがある（お家芸である近代美術からの逸脱と捉えられている）。ここ20年、現代美術をめぐる論争が各所でなされ、それらを仲裁せんと試みてきた芸術社会学者のナタリー・エニック氏が逆に矢面に立たされる場面にも遭遇し、学問の役割について考えさせられた。

1年を通して受け入れていただいた東京大学大学院総合文化研究科では、院生時代からお世話になっている先生方のゼミに参加し、若き院生たちに交じって研究報告を重ねた。変わらぬ鋭いコメントや真摯な議論に震える感覚を思い出した。

こうした諸経験を、教育・研究活動のなかで生かしていけたらと思う。新しいゼミ生（10期生）との2015年度がすでに始まっている。課題は山積しているが、この1年の成果をお世話になった学内外の皆様に報告できるよう、努めていきたいと考えている。

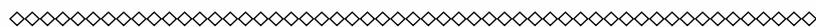
学外研究報告



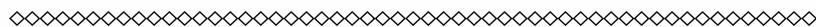
情報センター教授
杉本光司

今回の研修課題として、「デジタルアーカイブ及び3Dプリンタの研究」を掲げ、研修場所は、これまでの図工・美術分野との連携プロジェクトで実践してきた様々な活動の中において、特にデジタルファイルをデータベース化する際の著作権や肖像権等に関わる知的所有権についての見識を深めること、また、今後の情報と美術分野における連携の目指す方向の一つとして、3Dプリントや3Dデータ作成に関わる知識習得という目的のために、東京藝術大学美術学部の北郷悟教授にお世話になることにしました。

北郷教授は、美術学部彫刻科に所属しておりますが、総合芸術アーカイブセンター長として、また、同センターの3Dデジタルデータ研究プロジェクトのリーダーとしてもご活躍され



東京藝術大学と ICT



ており、美術分野における新たな方向および可能性の研究に邁進しております。

日常的には、デジタル・アーカイブセンター所属研究助手の木本諒さんとともに、3Dスキャニングや3Dプリンティングの現状や課題について研究を行いました。また、アーカイブデータの公開に関わる各種知的所有権に関わる課題や、私が関わっている本学のプロジェクト「たからばこ作戦」における独自システムについても、芸術情報センター芸術情報研究員の嘉村哲郎さんに現状説明をおこない、課題と解決策についてもご教示頂きました。

東京藝術大学における3Dプリンタ活用につきましては、芸術情報センター教育研究助手の森永さよさんと、主に教育課程における教材作成に対する3Dプリンタやデジタルデータの活

用について一緒に研究させて頂きました。ただ、学生や教員が日常的に使用できる3Dプリンタは1台しかなく、また、あいにく故障中の状況が長く続いていたため、実際の3Dプリンタを利用した作業については、秋葉原やお台場にある民間のものづくり工房を利用し、CADソフトを利用した立体造形のデザインや3Dプリンタにおける操作についての研修を受けながら実施しました。

今回の研究期間中における最も大きな経験は、東京藝術大学キャンパス内にある「岡倉天心像」の立体スキャニングプロジェクトに参加できたことです。3メートル近くもある塑像のスキャニングによるデジタルデータ作成は、平成27年1月9日（金）の午前8時半から16時まで行われましたが、第一回目の作業でもあり、この日だけで全てのデータが作成できたのではなく、左の写真のパソコン画面に表示されているような胸部から上の部分だけのデータ作成になり、完成を目指して引き続き作業が続く予定です。

6か月という短い期間でしたが、東京藝術大学という、これまでの私の研究生活からは全くの異分野の世界での研修をさせて頂きましたが、学内プロジェクト「たからばこ」の実践・研究にも十分生かせる知識習得の場となりました。この機会を与えて頂いたことに感謝するとともに、今後の教育・研究にも生かしていくつもりです。



岡倉天心像の立体スキャニング

昨年度の就職状況等を振り返って

副学長(兼キャリア支援センター長)
新保祐司



本学の平成26年度就職状況を振り返ってみると、就職率は、94.9%で昨年度の93.2%よりも1.7ポイントの増となりました。文部科学省と厚生労働省による平成26年度就職状況調査(国公立大学62校)をみると、今春卒業した大学生の就職率は96.7%(4月1日現在)で、前年度より2.3ポイント増と、4年連続で上昇し、平成20年3月以来7年ぶりの水準になっています。ほぼリーマン・ショック以前の水準を回復し、景気回復の動きに連動した数字となっています。

本学は、その数字よりも若干下回っていますが、90%台を維持しています。本学では、771名の卒業生(前期卒業生も含む)を送り出しました。就職希望者は612名で、そのうち581名の就職が決まりました。

た。就職率は前述したように94.9%でした。

平成21年度、平成22年度は、80%台を低迷していましたが、平成23年度から90%台に回復し、平成26年度も、堅調といていいと思います。

就職先の内訳をみると、教員(臨時採用を含む)は、公立学校と私立学校を合わせて、207名と昨年よりも17名増加しました。200名を上回ったことは、近來にない良い実績です。小学校が150名、中学校が33名、高等学校が15名、特別支援学校が3名、私立学校が6名という内訳です。企業も、311名と昨年をやや下回ったものの、300名台を達成しています。公務員は、63名と昨年の46名を大幅に上回りました。60台の数字は、これも近來にないものです。

公立学校では、北海道から沖縄まで全国38都道府県で採用されています。山梨の32名を筆頭に、東京の17名、長野の14名、静岡・市の13名、神奈川の11名、千葉と愛知の9名、といったところが注目されます。

公務員は、地方公務員が59名、国家公務員が4名となっています。例年通り、県庁、市役所、県警察本部などが多くなっています。民間企業就職者は、金融保険業、不動産業、サービス業などが増加しました。

さらに、大学院などへの進学者は、45名となっており、卒業生のうち、就職決定者と大学院等への進学者を合わせると3年連続で、8割を超えました。

以上、昨年度の就職・進学等の状況について簡単にまとめました。今年度の就職率を報じた新

平成27年3月卒業生 就職先一覧

■初等教育学科

企業

- シチズン電子 株式会社
- 株式会社 JTB関東
- 株式会社 アクティス
- 株式会社 クラ・ゼミ
- 株式会社 コミュニケーションサービス
- 株式会社 シュガー・マトリックス
- 株式会社 ティンパンアレイ
- 株式会社 テクノコア
- 株式会社 バイブドピッツ
- 株式会社 フォーカスシステムズ
- 株式会社 ミツエーリンクス
- 株式会社 ワシントン靴店
- 株式会社 阿波銀行
- 株式会社 一条工務店広島
- 株式会社 加賀屋
- 株式会社 山梨中央銀行
- 株式会社 新潟アルビレックスランニングクラブ
- 株式会社 山北造園
- 株式会社 オカベ
- 丸三証券 株式会社
- 教護施設 房総平和園 甲府信用金庫
- 三菱地所リアルエステートサービス 株式会社
- 社会福祉法人 ぶどうの里
- 社会福祉法人 敬愛学園
- 社会福祉法人 愛社社
- 日本郵便 株式会社

教員

- 愛知県教育委員会
- 愛媛県教育委員会
- 茨城県教育委員会
- 岡山県教育委員会
- 沖縄県教育委員会
- 岩手県教育委員会

- 岐阜県教育委員会
- 宮崎県教育委員会
- 宮城県教育委員会
- 群馬県教育委員会
- 香川県教育委員会
- 埼玉県教育委員会
- 三重県教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 滋賀県教育委員会
- 新潟県教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 静岡県教育委員会
- 石川県教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 大阪府教育委員会
- 長野県教育委員会
- 鳥取県教育委員会
- 東京都教育委員会
- 徳島県教育委員会
- 富山県教育委員会
- 福岡県教育委員会
- 兵庫県教育委員会
- 横浜市教育委員会
- 川崎市教育委員会
- 相模原市教育委員会
- 京都市教育委員会
- 大阪府教育委員会
- 名古屋市中区教育委員会
- 学校法人 駿台甲府学園 駿台甲府小学校
- 学校法人 朝日学園 朝日塾小学校

公務員

- 愛媛県庁
- 高岡市役所
- 上市市役所
- 長崎市都市町村村組合
- 都留市役所
- 南真輪村役場
- 富士吉田市役所

■国文学科

企業

- TDCソフトウェアエンジニアリング 株式会社
- アコム 株式会社
- ギャラリイ 開
- トランスコスモス 株式会社
- トリックスターズグループ
- みなみ信州農業協同組合
- ライフフリー 株式会社
- ロジックエス有限公司
- 株式会社 TDモバイル
- 株式会社 アイキューブ
- 株式会社 アクセスプログレス
- 株式会社 イノウエ
- 株式会社 エスエスワイ
- 株式会社 クリアスター
- 株式会社 ケーヨー
- 株式会社 コンフィアック
- 株式会社 サット
- 株式会社 シャンテリー
- 株式会社 シンカーミセル
- 株式会社 スーパーアルプス
- 株式会社 センコード
- 株式会社 ディー・エム広告社
- 株式会社 トップカルチャー
- 株式会社 ビーエーワークス
- 株式会社 ユアホームズ
- 株式会社 フィナンシャル・エージェンシー
- 株式会社 フォーナインズ
- 株式会社 メガネのハダダ
- 株式会社 ヨドバシカメラ
- 株式会社 興和自動車興業
- 株式会社 山陽メディアサービス
- 株式会社 昭信システムエンジニアリング
- 株式会社 多慶屋
- 株式会社 大川印刷
- 株式会社 中央コンタクト
- 株式会社 富士通新潟システムズ
- 株式会社 ホスピタリティオペレーションズ

教員

- 愛知県教育委員会
- 沖縄県教育委員会
- 群馬県教育委員会
- 三重県教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 鹿児島県教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 鳥取県教育委員会
- 兵庫県教育委員会
- 札幌市教育委員会
- 学校法人 星野学園
- 学校法人 北陸学院
- 学校法人 鎌形学園
- 東京大学
- 新潟県立上越特別支援学校

■英文学科

公務員

- いわき市役所
- 甲府市役所
- 山梨県警察本部
- 市川市役所
- 盛岡市役所
- 大田町役場
- 土岐市図書館
- 道志村役場
- 内灘町役場
- 日置市役所
- 日野市役所
- 北海道庁

企業

- FIMEX CO
- アパグループ
- アパホテル 株式会社
- イワタ薬品 株式会社
- キャリアビジネス 株式会社
- エンアール東日本フード
- ビジネス 株式会社
- ジャパンメディアシステム 株式会社
- スカイネットアジア航空 株式会社
- トナミ運輸 株式会社
- ネットヨタ静岡 株式会社
- ビジョン株式会社
- ブルガリジャパン 株式会社
- マックスバリュ 株式会社
- マツダオートリース 株式会社
- マフモーターズ 株式会社
- ミマキエンジニアリング 株式会社
- 学校法人 河合塾
- 株式会社 ティルウィンド
- 株式会社 Global Assist
- 株式会社 Globebridge
- 株式会社 JTB関東
- 株式会社 WITTS
- 株式会社 エイコス
- 株式会社 ガリバーイン

ターナショナル

- 株式会社 キープ・ウィル
- ダイエー
- 株式会社 クロスハワー
- 株式会社 さなる(佐鳴予備校)
- 株式会社 ジーユー
- 株式会社 ニチイ学園
- 株式会社 ニトリ
- 株式会社 ファーストリテ
- イリテック
- 株式会社 ブラザクリエイト
- 株式会社 プリンスホテル
- 株式会社 プレアデス
- 株式会社 ヨドバシカメラ
- 株式会社 レオパレス21
- 株式会社 共立メンテナンス
- 株式会社 熊本銀行
- 株式会社 古民屋
- 株式会社 三笠会館
- 株式会社 鹿児島銀行
- 株式会社 朱鷺
- 株式会社 電算
- 株式会社 日本レストラン
- エンアール
- 株式会社 キューン流通システム
- 株式会社 ホンダ四輪販売甲府
- 株式会社 ミニミニ静岡
- 株式会社 メディアベース
- 株式会社 中村機工
- 株式会社 日立物流バンテック
- フォワード
- 株式会社 コーポレーション 株式会社
- 公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会
- 山梨県民信用組合
- 社会福祉法人 至泉会
- 住江織物 株式会社
- 新潟県総合生活協同組合
- 静岡トヨペット 株式会社
- 相鉄ホテル 株式会社 横浜
- ペイシェラトン ホテル&タワーズ
- 中野土木 株式会社
- 帝國繊維 株式会社

聞記事によれば、景気回復に伴う求人増で、大学生の就職戦線は、売り手市場が鮮明になっているとのことで、来春に向けて引き続き企業の採用意欲は旺盛です。しかし、就職状況の内実をみれば、厳しい環境にあるこ

とに変わりはなく、希望の職種に就くためには、様々な課題を乗り越える努力が必要とされます。

そのような状況の中で、教員、公務員、企業のそれぞれの分野で、学生の皆さんの希望に叶う

就職が実現できるように、キャリア支援センターでは、これまで以上に各種の就職関連行事を通して応援していきますので、積極的に参加・活用してください。

表1 平成17～26年度の就職関係データ

Table with 11 columns (Year) and 11 rows (Graduates, Job seekers, etc.).

表2 平成27年3月卒業者（前期卒を含む）の就職先別人数

Table A: 教員 (Teachers) - 207 total. Includes elementary, middle, high schools, private schools.

Table C: 民間企業 (Private Companies) - 311 total. Includes agriculture, construction, manufacturing, etc.

Table D: 公立学校都道府県別採用数 (臨採含む) - 201 total. Lists prefectures and their respective numbers.

Comparison of various university departments: 比較文化学科 (Comparative Cultural Studies), 社会学科 (Sociology), and 現代社会専攻 (Modern Society Major). Lists associated companies and organizations.

「学生による授業アンケート」の結果から

授業アンケート実施率100%に向けて



FD委員会委員長 平野耕一

○授業アンケートの趣旨

本学では、毎年度の前期と後期に「学生による授業アンケート」を行っています。この稿では、2014年度の授業アンケートの結果を総括します。

授業は、教員だけが作るものではありません。教員と学生のやり取りがあって初めて成り立つものです。したがって、学生の皆さんも積極的に参加し、大学・教員に改善に向けての希望があれば、授業アンケート等の機会をとらえて申し出て下さい。

1. 授業アンケート実施率

表1は、授業アンケートを実施して頂いた教員の割合を示したものです。2013年度と比べて、2014年度は実施率が上が

りました。今後は100%を目指していきたいと思います。

2. 経年変化

本学の「学生による授業アンケート」は2003年度に始まりました。そして、様々な改良が行われ、2012年度から質問項目の見直しが行われたものが今の形になります。そこで、2012年度、2013年度、2014年度の3年間の全体平均点の経年変化を表2で見たいと思います。

3年間でカリキュラムや集団も変わっているので、以下は正確な統計ではないのですが、単純に数値を見ると、特に項目4の「予習・復習をしましたか」と項目12の「教室の設備・備品等は適切でしたか」の点数が

年々上がってきています。但し、毎年のことですが「予習・復習をしましたか」の点数は他の項目と比べて低いので、予習・復習の大切さを再確認して欲しいと思います。

3. 授業形態比較

表3は、「講義」、「外国語」、「実習・実験・実技」、「演習」のそれぞれの授業形態別の比較です。比較的、「実習・実験・実技」と「演習」の点数が高く、「講義」と「外国語」の点数が低い傾向があるようです。理論（講

表1 授業アンケート実施率

年度	2013年度	2014年度
専任教員	75.0%	96.1%
非常勤講師	58.5%	67.7%

※前期・後期を合わせたもの

表2 経年変化（全体平均点）

項	設問文	2012年度		2013年度		2014年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点					
		3.76	3.72	3.79	3.78	3.84	3.80
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.32	4.12	4.29	4.13	4.32	4.14
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.72	3.69	3.73	3.78	3.80	3.79
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.98	3.97	4.02	4.01	4.06	4.01
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	2.94	2.99	3.07	3.10	3.11	3.13
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.84	3.84	3.83	3.88	3.90	3.92
C	授業の進め方について	セクション平均点					
		4.09	4.11	4.07	4.13	4.13	4.16
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.12	4.13	4.09	4.15	4.15	4.19
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.09	4.11	4.07	4.13	4.14	4.17
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使い方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.17	4.18	4.15	4.21	4.19	4.23
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.99	4.00	3.98	4.04	4.04	4.07
D	授業環境について	セクション平均点					
		4.06	4.06	4.09	4.13	4.17	4.17
E	授業内容について	セクション平均点					
		3.96	3.98	3.94	3.98	3.98	4.01
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.15	4.15	4.13	4.18	4.17	4.20
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.12	4.16	4.10	4.18	4.17	4.22
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.07	4.08	4.07	4.11	4.13	4.14
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.51	3.52	3.46	3.46	3.46	3.46
F	授業成果について	セクション平均点					
		4.15	4.19	4.14	4.22	4.20	4.25
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え、技能などを修得できましたか。	4.15	4.18	4.14	4.20	4.19	4.24
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.12	4.16	4.11	4.20	4.18	4.23
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.19	4.22	4.17	4.25	4.24	4.27

義等)と実践(実習・実験・演習等)は相補的な関係にありますので、両者の大切な所を共に吸収するようにして下さい。

4. 学年比較

表4は、学年別の比較です。項目1の「授業にどの程度出席しましたか」の設問以外は、学

年が上がるにつれて点数が上がる傾向があるようです。特に1年生は、高校の授業と大学の授業との間でギャップを感じる人もいるかもしれません。勉強の仕方等で迷った時には、その科目の教員に「勉強の仕方」を聞いてみることを是非お勧めします。

○授業改善に向けて

今回の授業アンケートで、私も、担当している授業の改善に向けて貴重な意見を頂きました。自分で気付いていなかったこと等も分かったので、この声を基にして、もっと分かり易い授業になるよう改善していきたいと思います。

表3 授業形態比較 (2014年度)

項	設問文	講義		外国語		実習・実験・実技		演習			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点		3.77	3.73	3.98	3.88	4.13	4.03	4.04	4.11
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.28	4.11	4.40	4.10	4.51	4.27	4.49	4.30		
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.77	3.76	3.80	3.69	4.05	3.90	3.89	4.01		
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.97	3.92	4.17	4.04	4.60	4.48	4.37	4.41		
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行わなかったを1とし、5~1の範囲で答えてください。	3.03	3.02	3.61	3.60	3.12	3.22	3.28	3.55		
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.82	3.84	3.94	3.97	4.40	4.29	4.19	4.28		
C	授業の進め方について	セクション平均点		4.08	4.10	4.12	4.20	4.50	4.43	4.30	4.41
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.09	4.12	4.11	4.19	4.59	4.48	4.33	4.45		
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.08	4.10	4.17	4.23	4.59	4.47	4.34	4.43		
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.17	4.20	4.17	4.22	4.30	4.34	4.28	4.40		
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.98	3.99	4.04	4.14	4.52	4.43	4.26	4.36		
D	授業環境について	セクション平均点									
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.09	4.11	4.30	4.19	4.58	4.50	4.40	4.40		
E	授業内容について	セクション平均点		3.95	3.97	3.97	3.95	4.27	4.21	4.10	4.19
13	授業内容はわかりやすく整理されておりましたか。	4.12	4.15	4.16	4.21	4.58	4.49	4.32	4.43		
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.13	4.18	4.13	4.13	4.49	4.40	4.31	4.47		
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っておりましたか。	4.09	4.10	4.08	4.10	4.43	4.35	4.27	4.34		
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5~1の範囲で答えてください。	3.45	3.45	3.49	3.37	3.57	3.58	3.51	3.51		
F	授業成果について	セクション平均点		4.17	4.21	4.13	4.14	4.51	4.46	4.41	4.50
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え、技能などを修得できましたか。	4.16	4.20	4.10	4.12	4.49	4.46	4.39	4.50		
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.16	4.21	4.08	4.09	4.44	4.40	4.38	4.46		
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.19	4.23	4.20	4.21	4.60	4.53	4.47	4.54		

表4 学年比較 (2014年度)

項	設問文	1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点		3.87	3.81	3.85	3.81	3.81	3.77	3.76	3.77
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.58	4.31	4.29	4.15	4.17	4.05	3.73	3.71		
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.73	3.69	3.84	3.84	3.85	3.82	3.85	3.81		
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.10	4.03	4.02	3.99	4.03	3.99	4.11	4.11		
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行わなかったを1とし、5~1の範囲で答えてください。	3.06	3.12	3.19	3.17	3.06	3.08	3.13	3.16		
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.88	3.91	3.88	3.91	3.93	3.93	3.97	4.03		
C	授業の進め方について	セクション平均点		4.09	4.15	4.13	4.15	4.14	4.14	4.24	4.31
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.11	4.18	4.15	4.17	4.16	4.17	4.27	4.33		
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.10	4.16	4.15	4.15	4.14	4.13	4.25	4.33		
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.13	4.19	4.20	4.23	4.23	4.22	4.27	4.37		
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	4.03	4.08	4.04	4.05	4.03	4.05	4.15	4.22		
D	授業環境について	セクション平均点									
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.25	4.23	4.13	4.17	4.09	4.09	4.15	4.14		
E	授業内容について	セクション平均点		3.95	3.99	3.99	4.01	3.99	3.98	4.08	4.12
13	授業内容はわかりやすく整理されておりましたか。	4.14	4.20	4.18	4.19	4.17	4.18	4.28	4.34		
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.11	4.19	4.19	4.22	4.18	4.20	4.30	4.37		
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っておりましたか。	4.07	4.10	4.14	4.17	4.15	4.12	4.24	4.26		
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5~1の範囲で答えてください。	3.46	3.48	3.46	3.45	3.46	3.44	3.48	3.50		
F	授業成果について	セクション平均点		4.15	4.22	4.22	4.24	4.23	4.26	4.31	4.36
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え、技能などを修得できましたか。	4.13	4.22	4.20	4.23	4.22	4.25	4.28	4.35		
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.11	4.19	4.20	4.24	4.22	4.24	4.29	4.35		
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.20	4.26	4.25	4.26	4.24	4.27	4.35	4.39		

講演会だより

都留文科大学 英文学会英文学科共催後期講演会

「海外経験の活用に向けて」

2015.1.23(金) 開催
講演者 三宮麻由子氏

今回の講演では、若くして視力を失った（このことをシーンレスと言っていた）三宮氏が高校で経験した留学のお話だけでなく、今まで歩んできた人生など、非常に多くのことを話してくださいました。目が見えないからといって悲観的になることは全くなく、多くの困難に立ち向かい、乗り越えていったお話は紛れもなく努力の結晶であると思った。

三宮氏は4歳のころに視力を失ったが、その頃に近所の英会話スクールにて英語に出会った。そして英語の持つ音に夢中になり、英語圏で英語を話したいと思うようになる。留学のためシーンレスというハンデを乗り越えようとした三宮氏は普通中学校を受験しようと思っていたのだが、相手側から受験を断られた。その時に差別を感じたのだという。だが意志の強い三

宮氏はそれでも諦めず、高校生でアメリカ、ユタ州に念願の留学を果たす。視力を失った人の留学は日本初であった。

そこで頻繁に言われた言葉は“You are precious.”だったという。直訳すると「あなたは貴重だ」であるが、三宮氏はそこに言外の意味も感じたのだという。preciousには責任を伴い、自身がする行いには自身が必ず責任を負わなければならない、それはどこへ行っても同じであると留学で感じたのだという。すべては自分次第ということである。

シーンレスであった三宮氏は留学先で道に迷った事があった。誰が助けてくれるかも分からない状況で、一人道を歩いていったという。すると偶然そばを車で通りかかった方が三宮氏に彼女の目的地を尋ね、車でその場所へ送ってくれたという。こ

の経験を踏まえて、三宮氏は日本人と諸外国の人の違いを語る。アメリカでは困っていた人がいたらすぐに助けるが、日本ではすぐに気がつくものの、ほとんどの人が手を差し伸べようとしないということである。だからまずは、困っている人（特に視覚が不自由な人について三宮氏は言及していた）に対して声をかけてあげることから始めようとおっしゃっていた。もしかしたら必要のないことかもしれない。それでも声をかけてもらう事によって安心できるという三宮氏の言葉に、私も人助けに積極的になろうと思った。

講演中、三宮氏は1分当たり400語の速さで読まれる英文を1度聞いて完璧に把握し、正確に和訳するという離れ業を披露してくださいました。シーンレスである三宮氏の努力が垣間見える。同時に、人間の努力による可能性は無限だと知る良い機会となった。また、ピアニストでもある三宮氏は留学先においてもピアノを弾く機会があり、言葉以外のコミュニケーション方法があると感じたという。そんな素晴らしい耳を持っている三宮氏は、鳥の声を聞き、周りの状況を把握できるという。音が聞こえてくればシーンレスはシーンプルになるのだ。その時、三宮氏は講演にいた誰よりも、シーンプルであった。

(英文学科2年 最上亜太夢)

講師紹介

三宮 麻由子 (さんのみや まゆこ)

1966年、東京生まれ。エッセイスト。4歳で視力を失う。その時期に英語の持つ音に夢中になった彼女は、将来は英語を使う職業に就きたいと考え、高校生で留学を果たす。その経験を活かし、現在多方面で活躍している。

主な作品

- 『鳥が教えてくれた空』（日本放送出版協会）
- 『そっと耳を澄ませば』（日本放送出版協会）
- 『目を閉じて心開いて、本当の幸せってなんだろう』（岩波ジュニア文庫）
- 『きっとあなたを励ます「勇気の練習帳」』（PHP研究所）
- 『いのちの音が聞こえる』（海竜社）『幸福の羽音』（佼成出版社）
- 『音をたずねて』（文藝春秋）『おいしいおと』（福音館書店）
- 『空が香る』（文芸春秋）

など多数



講演会だより

2015年度：地域交流研究センター地域教育相談室・
COC推進機構共催第1回公開講座

「教育に活かすアドラー心理学」

2015.5.29(金) 開催
文教大学教授 会沢信彦 先生



講演会の様子

今年度の公開講座のテーマは最近話題の「アドラー心理学」、講師にはその普及のために全国を飛び回っている会沢先生をお迎えしました。

講演のエッセンスをさらに圧縮して紹介すると、アドラーはオーストラリアの医師、基本的な考え方は、「目的論」「全体論」「現象学」「対人関係論」「自己決定性」です。相手の問題行動に遭遇したときには過去に遡って原因を考えるのではなくその目的を考え、その人が物事にどのような主観的な意味づけをしたかを理解しようとしています。また、人には幼少期にほぼ決

まる「自己概念」「世界像」「自己理想」で構成される「ライフスタイル」があり、それが後の人生に影響してくるので、どんなライフスタイルを持っているかを理解することも重要となります。

教育の場で特に参考になると感じたのはアドラーの高弟ドライカースの考え方です。人間のもっとも基本的な欲求は所属欲求。また、人間の行動には必ず相手役がいて子どもにとっては家庭では親や兄弟、学校では教師や級友になります。子どもの不適切な行動の目標の第1段階は「注目・関心」を引くことです。叱る

と注目したことになってしまいます。第2段階では行動がエスカレートして「権力闘争」に引き込みます。やがて「復讐」の段階、「無気力・無能力のを誘示」の段階へと進みます。問題を深刻化するというものです。これを止める方法が「勇気づけ」です。アドラーは対等な横の関係を重要視し、「ほめる」「叱る」は相手を低く見て行方縦の関係、一方、「勇気づけ」は相手のありのままを認め自己受容を促し困難を乗り越える勇気の後押しをする横の関係のアプローチです。アドラー心理学の本では「ほめるな」「叱るな」と言う主張を見かけますが、会沢先生はそこを強調しすぎると親や教師は何もできなくなるとおっしゃっていました。要は「ほめ方」「しかり方」の問題で、そこに「勇気づけ」の味付けをすることが必要なのかもしれません。さらに、アドラーが目標とする「共同体感覚」を仏教の「慈悲」、キリスト教の「隣人愛」に例えられ、今こそ必要なのではないかと熱く語られていました。会沢ワールドに引き込まれた90分でした。

(COC推進機構 品田笑子)

講師紹介



会沢 信彦 (あいざわ のぶひこ)

文教大学教育学部教授。筑波大学大学院教育研究科修士課程修了、立正大学大学院文学研究科博士課程満期退学。

函館大学専任講師、文教大学助教授を経て現職。日本生徒指導学会常任理事、日本教育カウンセリング学会理事、埼玉県ガイダンスカウンセラー会副会長、日本学校心理士会埼玉支部副支部長・事務局長、埼玉県障害児就学支援委員会委員、草加市いじめ問題調査対策委員会委員として精力的に活動中。

して精力的に活動中。

専門領域は、教育相談、生徒指導、学級経営。主な資格は、学校心理士スーパーバイザー、認定スーパーバイザー、ガイダンスカウンセラー、臨床心理士。

主な著書は『学級づくりと授業に生かすカウンセリング』(共編著・ぎょうせい)、『教師のたまごのための教育相談』(共編著・北樹出版)、『今日から始める学級担任のためのアドラー心理学』(共編著・図書文化社)など多数。

文大だより

平成27年度 都留文科大学卒業式

平成27年3月21日（土）、午前11時より都の杜うぐいすホールにて、平成26年度 都留文科大学卒業式を開催いたしました。当日は、桜のつぼみもふくらみ、春色にわかにはまり始めるなか、766名（学部、専攻科、大学院を含む）がそれぞれの道へ旅立ちました。

式典は理事長の「困難な時代ではありますが、本学で培った不屈の精神で、教育界、そして地域、社会、さらには世界でご活躍いただきたい」との挨拶から始まり、卒業証書・修了証書・学位記などが各学科の代表者に授与されました。その後、学長より「こ



学位記授与



式典の様子

この都留の地で、濃い人間関係を作り上げてきたことはかけがえのない財産です。ぜひ、自信と誇りを持って巣立って行ってください。」と卒業生・修了生に対する「送ることば」が述べられました。

そして最後に、卒業生代表の国文学科 山下万里子さんより「私たちは、大学生活を通して、挑戦することに自信を得ることができました。多くの人とのつながりを築くこともできました。これらを糧に、新しい道を歩んでいこうと思います。」と答辞があり、会場からは大きな拍手が湧き上がりました。

本学の吹奏楽部並びに合唱団による学生歌「花のかげ」が演奏されるなか、式は無事終了いたしました。

平成26年度 卒業生・修了者数

<p>■学部</p> <p>初等教育学科……………201名</p> <p>国文学科……………129名</p> <p>英文学科……………146名</p> <p>社会学科</p> <p>現代社会専攻……………104名</p> <p>環境・コミュニティ創造専攻……………63名</p> <p>比較文化学科……………114名</p>	<p>■専攻科</p> <p>文学専攻……………5名</p> <p>■大学院</p> <p>臨床教育実践学……………0名</p> <p>国文学……………1名</p> <p>英語英米文学……………6名</p> <p>比較文化……………3名</p> <p>社会学地域社会研究……………1名</p>
--	--

平成27年度 入学試験状況

平成27年度 推薦入学試験状況			
学科名	受験者数	合格者数	
初等教育学科	227	98	
初等教育学科（芸術体育系・自然環境科学系）	32	21	
国文学科	178	65	
英文学科	85	43	
社会学科	現代社会専攻	113	46
	環境・コミュニティ創造専攻	49	33
社会学科環境・コミュニティ創造専攻（活動評価型推薦）	13	10	
比較文化学科	97	57	

平成27年度 編入試験状況			
学科名	受験者数	合格者数	
初等教育学科	14	10	
国文学科	15	7	
英文学科	23	5	
社会学科	現代社会専攻	9	4
	環境・コミュニティ創造専攻	4	2
比較文化学科	9	3	

平成27年度 前期日程入学試験状況			
学科名	受験者数	合格者数	
初等教育学科	36	20	
国文学科	164	51	
英文学科	120	58	
社会学科	現代社会専攻	42	32
	環境・コミュニティ創造専攻	39	22
比較文化学科	41	28	

平成27年度 中期日程入学試験状況			
学科名	受験者数	合格者数	
初等教育学科	183	94	
国文学科	467	142	
英文学科	328	142	
社会学科	現代社会専攻	91	47
	環境・コミュニティ創造専攻	52	36
比較文化学科	211	110	

文大だより

平成26年度 学生表彰制度による表彰

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対する学生表彰制度により、8名2団体が表彰されました。



被表彰者名	概要
陸上競技部 いけうち えりか 池内 英里香	第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4 × 100m 5 位入賞、第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 4 × 100m 7 位入賞 他。
陸上競技部 いけじま しょうこ 池嶋 祥子	第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4 × 400m 6 位入賞、第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 400m 6 位入賞 他。
陸上競技部 なかむら みさき 中村 美咲	2014 日本学生陸上競技個人選手権大会 1500m 2 位 (準優勝)。
陸上競技部 そのだ かなこ 園田 可南子	第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4 × 400m 6 位入賞、第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 4 × 400m 8 位入賞。
陸上競技部 もり ゆきな 森 佑紀那	第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4 × 100m 5 位入賞、第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 4 × 100m 7 位入賞。
陸上競技部 いでづか ちえ 出塚 千恵	第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4 × 400m 6 位入賞、第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 4 × 400m 8 位入賞。
陸上競技部 ながせ あやか 永瀬 綾夏	第 98 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4 × 100m 5 位入賞、第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会 4 × 100m 7 位入賞。
陸上競技部 まつもと さやこ 松本 沙耶子	第 31 回日本ジュニア陸上競技選手権大会 100m 優勝、第 16 回アジアジュニア陸上競技選手権大会 4 × 100m 4 位入賞 他。
合唱団	全日本合唱コンクール全国大会 6 年連続金賞受賞、あわせて文部科学大臣賞受賞。
ラグビー部	平成 26 年度全国大学ラグビー地区対抗大会関東第 2 地区第 3 位入賞。鶴鷹祭にて 10 年振りに勝利し、大学対抗での勝利に貢献。

成績優秀者表彰が行われました

6月9日(火)に、昨年度(平成26年度)、学内において優秀な成績を収めた学生を表彰する「成績優秀者表彰式」が行われました。

対象となったのは、初等教育学科・国文学科・英文学科・社会学科・比較文化学科の2年生から4年生までの各学年で1名ずつ、計15名の成績最優秀者と、各学年で2名ずつ、計30名の成績優秀者(今回は2名同点が1件あったので計31名)で、式典では大谷理事長と福田学長からお祝いの言葉を頂き、続いて学長より表彰状が授与されました。

また対象者には、昨年度より創設された「成績優秀者奨学金」が給付されます。



文大だより

フィールド・ミュージアム通信

附属図書館ビオトープでオオムラサキの幼虫が！

昨年（2014年）、附属図書館に隣接するビオトープで初めてオオムラサキの幼虫が見つかりました。オオムラサキは、羽を広げると5cmほどになる大型の蝶です。名前の通りオスの羽の中央部は美しい紫色をしています。幼虫はエノキの葉を食べて育ち、6月から7月にかけて羽化します。



羽化したオオムラサキ。大型の蝶です。

このビオトープには、蝶が吸蜜に訪れるシモツケやトラノオなどの植物もあります。

ほとんどの植物は大学近辺にふつうに自生しているものですが、昨年1年間で32種類の蝶が確認されました。これは山梨県内で記録されている蝶の約20%になります。

附属図書館のビオトープが造られて10年ほど。少しでも自然の賑わいが感じられ、学生・職員・市民の交流が生まれ、附属図書館の読書環境が向上するような空間にしようと地域交流研究センターのフィールド・ミュージアム部門が学生とともに植物の移植や剪定などの作業をしています。今年の夏は、オオムラサキが飛び交う姿がビオトープで見られるかもしれません。ぜひビオトープを訪ねてみてください。



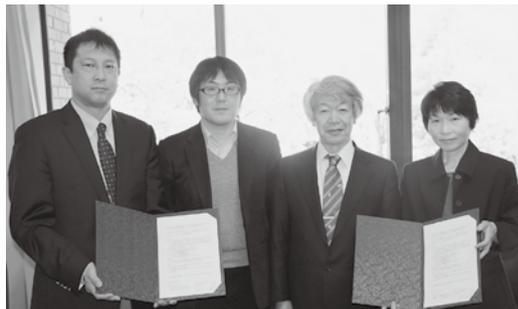
附属図書館ビオトープのオオムラサキの幼虫。どこにいるかわかりますか？

（地域交流研究センターフィールド・ミュージアム部門）

地域交流研究センターにおける地域特別支援教育分野の開設と地域団体との連携協定

今年度4月、地域交流研究センターの中に、新たに「地域特別支援教育分野」を開設しました。当分野では、郡内地域の障がいのある子どもたちの発達・教育支援とインクルーシブな地域社会づくりを促進していきます。具体的には、①知的・発達障がいのある子どもたち対象の余暇活動「クロボ（クロスボーダー）・プロジェクト」と保護者たちの「おしゃべりの場」づくり（月1回）、②障がいのある子どもや保護者対象の発達相談・療育活動（随時）、③現職教員や一般市民向けの障がい理解研修（年1回、夏）とインクルーシブな地域社会づくりの啓発イベント（年1回、冬）といった取り組みを行っていきます。

①の「クロボ・プロジェクト」を開催していくにあたって、4月8日（水）には富士五湖地域で発達障がいの子をもつ親の会として活動する「ぶどうの会」と、4月22日（水）には都留市で障がいのある子どもの「児童発達支援と放課後等デイサービス事業」を展開するNPO法人「天使のおもちゃ図書館はばたき」と調印式を行い、「連携協定」を締結しました。現在は、学内の学生サークル「いこいのひろば支援サークルIKI」や都留市社会福祉協議会、「スペシャルオリンピックス日本・山梨」、「山梨県立こころの発達総合支援センター・就労支援ワーク実行委員会」との協働を模索しています。モデルケースとしてのインクルーシブな地域社会の実現を旗印とするため、今後も、地域団体との協働での事業展開をこころがけ、郡内地域における障がい児・者支援のネットワークづくりを積極的に推進していきます。



NPO法人「天使のおもちゃ図書館はばたき」との調印式

「地域特別支援教育分野」の活動経過については、地域交流研究センターのホームページにおいて随時報告していく予定です。関心のある方は見ていただくと幸いです。

（初等教育学科講師・地域特別支援教育分野担当、堤英俊）

文大だより

平成27年度 オープンキャンパス情報

・夏季オープンキャンパス

平成27年7月18日(土) 午前9時～午後3時

[主な内容] ○学科別説明会○卒業後の進路と就職状況説明会○学科別特別講義○進学相談会○留学制度相談会○
学生生活相談会○学生によるキャンパスツアー○学食体験○体育会、文化会等の活動報告

・秋季オープンキャンパス

平成27年10月12日(月・祝)～24日(金) (水・土・日を除く)

午前9時10分～午後4時20分

[主な内容] ○公開授業体験○キャンパスツアー○進学相談会○学食体験



申込方法 本学 HP もしくは FAX により申し込みください。

HP : <http://www.tsuru.ac.jp/>

FAX : 0554 - 43 - 4347

問合せ先 都留文科大学 経営企画課 企画広報担当

TEL : 0554 - 43 - 4341 (内線 241)

第46回 つる子どもまつり開催

5月17日(日)、都留文科大学を会場として第46回つる子どもまつりが開催されました。

「子どもたちが自己表現できる場にしよう」という今回の子どもまつりの目標のもと、午前9時の開会式から3時50分に閉会式が終了するまでの間、ブース毎に工作や演劇、音楽の演奏などのレクリエーションが行われる「くに企画」や、来場者全員参加の「みんなの広場」などの企画が実施され、訪れる人たちの笑顔がはじけました。

当日は天候にも恵まれ、元気に笑いながら走る子どもたちの楽しそうな声が、快晴の都留の空の下に響き渡りました。



学生食堂にて100円朝食の提供が始まりました。

4月9日(木)より学生食堂にて、本学学生を対象に100円朝食の提供が始まりました。

本学としては初の試みですが、連日盛況で、朝から大勢の学生が学食へと集まっています。

和食と洋食が隔日で提供され、学生たちにも栄養バランスが良くとれたメニューが好評です。



文大だより

 生と死の狭間に
 ～戦場ジャーナリスト 山本美香～

取材先のシリア・アレッポで銃弾に倒れ、45歳という若さでこの世を去った本学OBであるジャーナリストの山本美香さんにスポットを当てたラジオドラマが5月30日（土）にYBSラジオにて放送されました。このラジオドラマは、都留文科大学創立60周年記念事業の一環として、女優の藤原紀香さん主演で放送され、本学はスポンサーを務めました。彼女の生き様をたどることで、多くの人々にとって報道の使命とは何なのかを考える1時間となりました。本学においても学内聴取会が開催され、多くの学生がドラマに耳を傾けておりました。



山本美香さん

同窓生との模擬面接体験会

5月9日（土）に模擬面接体験会が開催されました。会には教員志望の学生約140名が参加、全国各地より参集した本学卒業生が講師となり、採用試験対策として様々なご指導をいただきました。

第1部は代表学生が集団面接・集団討論・模擬授業を行い、他の学生がその様子を見学する形式で行われました。各分野において、面接官役である講師の方より厳しくも温かい講評をいただき、きめ細かい実践的な指導が行われました。

第2部では学生は受験地域ごとに教室に分かれ、各地域の試験に即したアドバイスや、集団面接・討論等の実践指導を受けました。参加した学生は皆熱心に取り組み、採用試験に向けて良い刺激を得たようです。

最後に、ご協力いただきました同窓会の皆様には、厚く御礼申し上げます。



第1部 会場の様子



第1部 模擬授業の様子

文大だより

学生サークル Trinity 主催

第14回 つる白熱教室 増田寛也氏講演会

平成27年6月10日、東京大学公共政策大学院客員教授である増田寛也さんを本学にお招きし、「都留文科大学創立60周年記念 第14回つる白熱教室 増田寛也講演会～都留の未来を考える～」を行いました。講演会当日は、南アルプス市や甲州市、忍野村など遠方からも多くの方にお越し頂き、会場の2号館101教室は200名以上の来場者で満席となり、本講演会への関心の高さが伺えました。

今回お招きした増田寛也さんは日本創成会議座長でもあり、著書「地方消滅－東京一極集中が招く人口急減－」は「新書大賞2015」（中央公論新社主催）を受賞されました。本講演会でも、地方で特に深刻な人口減少の現状を説明されたうえで、“若者が子どもを生き育てやすい環境づくり”や“「東京一極集中」の流れから地方へ人を呼び込む流れへの転換”、“女性や高齢者、海外人材の更なる活躍推進”といった人口減少に歯止めをかけるための新たな戦略をお話して下さいました。

私たちの暮らす都留市でも、平成22年の出生数は233人と、前調査年度の平成17年の276人から43人減少している現状です。（1）都留の未来を考え、切り拓くことができるのはわたしたちひとりひとりです。衝撃的なデータに一喜一憂することなく、そこに暮らす人々の声に寄り添い、より着実に、前向きな対策整備に取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

都留文科大学創立60周年という節目の年に、地域の方・大学生がともに都留の未来を考えるこのような機会を持てたことは非常に有意義であったと感じております。これからも当サークルでは文大生、大学、地域の方々が互いに手を取り合い、知恵を出し合いながら活動できる機会（三位一体：Trinityとなる場）の提供活動を行なっていきます。

末文になりましたが、お力添え頂きました地域の皆様、ご来場頂きました皆様、共催を頂きました都留文科大学創立60周年記念事業期成会の皆様、そして、遠路遥々都留にお越し下さりご講演頂きました増田寛也さんに厚く御礼申し上げます。



当日の会場の様子



講演会の様子

講師紹介



増田 寛也（ますだ・ひろや）

1977年東京大学法学部卒業。岩手県知事（1995～2007年）、総務大臣（2007～08）を歴任。2009年より野村総合研究所顧問、東京大学公共政策大学院客員教授。2011年より日本創成会議座長。著書に「地方消滅～東京一極集中が招く人口急減～」がある。

都留文科大学 初等教育学科4年

Trinity代表 宗野幸紀（そうの・ゆき）

参照データ：

- （1）厚生労働省『人口動態統計』（ただし、都留市『都留市子ども・子育て支援事業計画』2015年3月 p.6からの重引）

文大だより

名誉教授の称号授与

平成26年度をもって定年退職された次の6名の教員に対し、これまでの研究活動並びに学内活動などの功績を称え、名誉教授の称号を授与いたしました。

加藤祐三氏；本学の学長として、教員に向けて教授会と法人との関係を粘り強く説得し、法人化後の困難な時期に教授会の運営を安定化させた。また、COC事業、学長プロジェクトなど、新たな発想で本学の運営を活性化させた功績には、大きなものがある。



称号授与の様子

高田理孝氏；初等教育学科教授、35年間にわたり本学の教員をつとめてきた。研究面では、認知心理学を専門とし、一貫して自伝的記憶について実験を行い、その実態を明らかにしてきた。教育面では、実験を柱としながらも、調査教育の指導も行い、幅広い学生の関心に応えてきた。また、自身の調査技術、データを用いて本学入試における制度改革及び管理運営にも多大な貢献をされた。

相守光恵氏；初等教育学科教授、30年間にわたり教育と研究の両面で、また大学運営においても多大な功績をあげられた。ゼミに相当する音楽系専門科目「楽器奏法」では、毎年多くの教員採用試験合格者を輩出している。学内の委員としては、重要な委員を歴任されてきたが、特に人権、男女平等などに長年関わられ、その細やかな心配りで大学内を良き方向に導いてこられた。

阿毛久芳氏；国文学科教授、30年以上にわたり近代文学の専門家として本学で研究と教育を行い、特に萩原朔太郎、中原中也、宮沢賢治の研究では多くの業績を残された。また、学内での活動においても、学長選考規定検討委員長、予算委員長、学長選挙管理委員長、大学院研究科委員長などを歴任。平成25年度より本学副学長に就任。

牛山 恵氏；国文学科教授、20年にわたり本学で国語教育学の専門家として研究と教育を行っている。小学校・中学校での教壇経験を応用して、こどもに寄り添いながら国語教材の読解の幅を広げてゆくという新しい論点を創りだし、著書・論文の形にまとめてこられ、その業績は学会でも高く評価されている。また、学務においても、教育実習指導委員長や企画委員など大学全体に貢献する仕事をしてこられた。

鳥居明雄氏；比較文化学科教授、35年にわたり本学の専任教員をつとめられた。研究においては、伝統演劇、とりわけ能・説教浄瑠璃に関して多面的な業績を数多く発表されておられ、日本文学協会で運営委員、編集委員などをつとめられた。学内においては、入試制度検討委員長、比較文化学科主任、国際交流留学委員長、共通教育委員長、共通教育主任、学生部長等を歴任され、学内運営に多大な貢献をされた。

優れた多くの学生を輩出するなど、本学発展のため多大な貢献を賜り、誠に有難うございました。

文大だより

人事異動

平成27年4月1日付けの人事異動は次のとおりです。
氏名の前が移動先、()内は前職です。

役員就任

事務局長 高部 剛

採用

初等教育学科准教授 春日由香
初等教育学科講師 十川菜穂
社会学科教授 高橋 洋
社会学科准教授 両角政彦
社会学科講師 小島 恵
社会学科講師 福島万紀
社会学科講師 佐藤 裕
比較文化学科准教授 志村三代子
比較文化学科准教授 茂木秀昭
国際教育学科(仮称)準備室教授 布山浩司
初等教育学科特任准教授 Hywel Evans
英文学科特任准教授 周 非
国際交流センター特任准教授 桑原奈智子
国際交流センター特任准教授 宮下 聡
教職支援センター特任教授 山崎隆夫
教職支援センター特任教授 品田笑子
COC推進機構特任教授 北垣憲仁
COC推進機構特任教授 内山美恵子
キャリア支援センター特任教授 相守光恵
キャリア支援センター特任教授 牛山 恵
学生課キャリア支援センター担当主事 佐々木祥介
経営企画課企画広報担当主事 渡邊誠大
学生課教務担当主事 栗賀 堯
学生課キャリア相談専門員 梅澤あゆみ

退職

相守光恵(初等教育学科教授)
高田理孝(初等教育学科教授)
阿毛久芳(国文学科教授)
牛山 恵(国文学科教授)
西出公之(英文学科教授)
福田誠治(比較文化学科教授)
鳥居明雄(比較文化学科教授)
新見公康(国文学科特任教授)
舘山拓人(初等教育学科特任准教授)
品田笑子(地域交流研究センター特任教授)
北垣憲仁(地域交流研究センター特任教授)
渡辺 新(保健センター特任教授)

転入

経営企画課課長 齋藤浩稔
(税務課主幹(兼)課長補佐)
学生課主幹学生担当 鈴木正子(福祉課副主幹)
経営企画課主査企画広報担当 高山みどり(健康推進課主査)
学生課主査教務担当 山本香栄(会計課主査)
総務課主査庶務人事担当 鈴木いづみ(市民生活課主査)
学生課主任教務担当 柏木秋宏(総務課主任)
経営企画課主事地域交流・COC担当 横田祐太郎(財務経営課主事)

転出

福祉保健部長(兼)福祉事務所長 重原達也 理事
(事務局長(兼)経営企画室長)
税務課主幹(兼)課長補佐・収納対策室長 藤本信夫(政策形成課主幹)
私立病院事務局副主幹 志村高男(政策形成課副主幹)
市民課副主査 有賀ひとみ(政策形成課副主査)
市民課主任 藤江 毅(政策形成課主任)

配置換

初等教育学科講師 上原明子(キャリア支援センター講師)
総務課主幹(兼)課長補佐(兼)研究支援室長(兼)研究支援担当 久保田浩(学生課主幹(兼)課長補佐)
経営企画課主幹(兼)課長補佐(兼)入試室長 田中正樹(学生課主幹(兼)課長補佐)
総務課副主幹庶務人事担当 鬢櫛美咲(総務課副主幹総務・企画担当)
経営企画課入室主査入試担当 小澤初美(総務課入試室主査)
経営企画課副主査地域交流・COC担当 奈良健三(総務課副主査総務・企画担当)
経営企画課入試室主事入試担当 堀内成寿(総務課主事総務企画担当)
総務課主事情報センター担当 井上邦男(総務課入試室主事入試担当)
総務課主事庶務人事担当 北浦麻奈美(総務課入試室主事入試担当)

昇任

初等教育学科教授 筒井潤子(初等教育学科准教授)
初等教育学科教授 藤本 恵(初等教育学科准教授)
社会学科教授 黒崎 剛(社会学科准教授)
学生課主任キャリア支援センター担当 渡邊理恵(政策形成課主事)

編集後記

新委員長より
ご挨拶

別宮(坂田)有紀子

この度、広報委員長に任命された別宮(坂田)有紀子と申します。これまで4年間、初等教育学科の広報委員を担当してきました。広報委員は、基本的に所属学科に関する広報事項を扱いますが、委員長には大学全体の広報戦略に沿って円滑かつ効果的に広報活動を推進することが求められます。失敗も成功も、影響力の大きさと範囲が違います。そのような大役を仰せつかり、責任の重さに身が引き締まる思いです。これまでの歴代委員長が築いてこられた実績と伝統を継承し、本学の発展に貢献できるよう微力ながら力を尽くしたいと思います。さて、広報委員長として、「本学の特色」は何だろうと考えてみました。

- 1) 富士山に近く、緑豊かな山裾に立地。水が美味しく静かな環境
- 2) 社会や文化を通して人間の本質を探究する学風
- 3) 教員養成系大学としての安定的な評価
- 4) 伝統にとらわれず新しい物事にチャレンジする精神

他にもいろいろあると思いますが、本学の特色は何と言っても、小規模大学ゆえの制約(全員参加の大学運営)から生まれる独自性・独創性にあるのではないかと思います。時流に安易に追随するのではなく、「本当に大切なこと、必要なこと」、「大学で学ぶことの本質」を皆で知恵を出し合って探究・追求してきた先人たちの努力の上に現在の本学があります。過去の成功にあぐらをかくことなく、時代を的確に読みつつも、「時代を超えて通じる力と継承すべき大切なこと」を教育・研究を通して社会に発信・貢献する。そのような本学の良さが最大限にアピールできるよう、これから2年間精一杯務めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



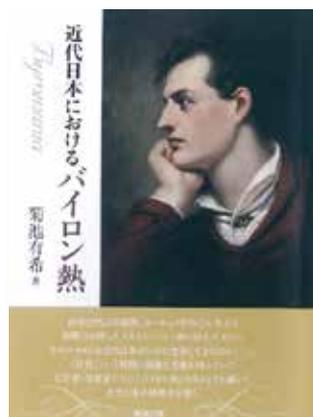
キャンパス内に咲いていたカタクリの花



マイケル・W・フォックス/著
北垣憲仁/訳
2015年5月
白揚社 2,200円+税

◇きたがき けんじ
COC 推進機構特任教授

あなたの犬が本当に求めているもの
幸せな犬の育て方



菊池有希/著
2015年3月
勉誠出版 12,000円+税

◇きくち ゆうき 国文学科専任講師

近代日本におけるバイロン熱

本
ぶんだい堂